

合	羽	一	二十四ヶ月	守衛、使丁ニ限り給ス
頭	巾	一	同	同

第三條 貸與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 帽子前章
- 一 卸

第四條 長短靴ハ新任又ハ復職ノ際現品ヲ給與シ其ノ他ハ代料ヲ支給スルコトヲ得其代料ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル

第五條 給與品ハ使用期限經過シタルトキハ本人ニ附與ス

第六條 給與品ノ修理ハ自辨トス

第七條 貸與品ハ其附着給與品ノ使用期限經過シタルトキハ速ニ之ヲ返納スヘシ但使用期限中破損シ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ代品若クハ修理ヲ加ヘ交付ス

第八條 新任又ハ復職ノモノニハ返納品中ノ物品ヲ選ミ使用期限ノ殘月數ニ應シテ給與スルコトヲ得

第九條 給與若クハ貸與セシ物品ハ物品會計吏ニ於テ毎月又ハ臨時ニ點檢ヲナスコトアルヘシ

第十條 貸與品ハ免職轉職若クハ死亡ノ際ハ三日以内ニ返納スヘシ使用期限ノ終ラサル給與品亦同シ但シ給與シタル代料ハ事故ノ生シタル月ノ翌月ヨリ起算シ月割ヲ以テ返納スヘシ

第十一條 自己ノ過失怠慢ニ依リ使用期限ノ終ラサル給與品及貸與品ヲ毀損亡失シタルモノハ給與品ハ其使用期限殘月數ニ應スル調製代價又ハ貸與品ハ其原價ヲ辨償セシメ更ニ代品ヲ交付ス但給與ニ屬スル毀損品ハ本人ニ交付ス

第十二條 第十條及第十一條ノ手續ヲ本人ニ於テ履行セサルトキハ身元保證人ヲシテ其責ニ任セシム

第十三條 本規定ハ明治三十三年度ヨリ施行ス但從前ノ規定ハ總テ廢止ス

(備考)

三十四年六月告示第八三號ヲ以テ第一條改正

三十八年三月告示第二四號ヲ以テ第一條第二條及第四條第八條ヲ改正ス

三十九年四月告示第二三號及四十年一月告示第五號ヲ以テ第一條中改正

○旅費支給規程

三十二年(四月) 告示 第四五號

- 第一條 旅費ハ市ノ公務ニ依リ旅行スルトキ其旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
- 第二條 旅行ヲ分テ五等トシ別表定ムル所ニ由リ順路ノ路程ニ應シテ支給ス但特ニ經過スヘキ路次ヲ指定シタル場合ハ其路程ニ依ル
- 第三條 汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數宿泊料ハ宿泊數ニ應シテ支給ス
- 第四條 日當ハ陸路六里未滿汽車十里未滿汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ此限ニアラス
- 第五條 汽車賃汽船賃車馬賃ハ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ支給ス但一位未滿ノ端數ノ路程ハ切捨トス
- 第六條 解職ノ際事務引繼又ハ殘務取調其他公務ノ爲旅行セシムル時ハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第七條 工事又ハ線路ノ巡回其他測量等ノ爲メ出張久シキニ涉リ里程等ノ算出シ難キ場合ニハ日當并ニ宿泊料ノ程度以內ニテ積算シ適宜月額旅費ヲ支給ス
- 第八條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ拘ハラズ其到着シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ
- 第九條 有給吏員ノ旅費ハ臨時止ムヲ得サル場合ニアラサレハ特ニ實費拂ト爲スコトヲ得ス但市費ヲ以テ車馬ヲ供給スルハ隨行又ハ急行ヲ特命シタルトキ若クハ暴風雨ノ時ニ限ル
- 第十條 通譯ニシテ上司隨行又ハ外國人ト同行ヲ命シタルトキハ特ニ二等旅費ヲ給スルコトヲ得
- 第十一條 市内出張ヲ常務トスル吏員(掃除監督長同監 督同巡視ヲ除ク)ニ在テハ月額金三圓ノ手當ヲ支給ス但一ヶ月ノ内十五日以上出張セザルトキハ日割計算トス

第十二條 書記附屬員ノ市内出張ニシテ其順路ノ二里以上ナルトキハ日額金十五錢ノ手當ヲ支給ス但第九條ニ依リ車馬ヲ供給シタルトキハ此限ニアラス

附 則

第十三條 第七條ノ月額第十一條ノ市内出張ヲ常務トスル吏員及第十二條ノ里程算出ハ市參事會之ヲ定ム

別 表

等	級	一哩ニ付	海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一宿ニ付	日當 一日ニ付
一 等	市長、助役、收入役	六 錢	六 錢	參拾錢	貳 圓	五拾錢
二 等	院長、副院長、技師、市役所各課長、水道局瓦 斯局十全醫院首席書記、掃除監督長	六 錢	六 錢	貳拾錢	壹圓 五拾錢	壹 圓
三 等	書記、技手、視學、通譯、醫員、調 劑係、掃除監督	五 錢	四 錢	拾七錢	壹 圓	七拾錢
四 等	書記補、技手補、掃除巡視、看護人 雇員	四 錢	參 錢	拾六錢	七拾錢	五拾錢
五 等	守衛、使丁、職工、給仕	參 錢	貳 錢	拾五錢	四拾錢	參拾錢

(備 考)

三十四年十二月告示第一八一號ヲ以テ第二條中別表トアル甲號表ト改メ第七條第二項ヲ削リ第十條但書及第十一條乃至第十  
五條ヲ追加シ旅費額表ヲ甲號表トシ更ニ乙號表ヲ追加ス

三十七年三月告示第二五號ヲ以テ第七條ヲ改メ第九條ヲ削除シ第十條ヲ繰上ケ第十條以下ヲ改正シ甲號表等級欄三等技手ノ次  
ニ通譯ヲ加ヘ乙號表ヲ削除ス

三十八年五月告示第三五號ヲ以テ甲號表ヲ別表ト改メ其表等級欄ノ内二等乃至五等ヲ改正ス

三十九年五月告示第三六號ヲ以テ別表二等々級欄内瓦斯局ノ下ニ十全醫院ヲ加フ

四十年四月告示第四號ヲ以テ同三等々級欄内技手ノ下ニ視學ヲ加フ

○旅費支給規程施行細則

三十七年(三月) 廳達第三號

- 第一條 出張ヲ要スルトキハ主務課長ニ於テ別紙(甲號書式)ノ稟議書ヲ文書課長ヘ送付スヘシ
- 第二條 文書課長ニ於テ前條ノ稟議書ヲ受ケタルトキハ議事課ヘ合議シ主務部長ヲ經テ決裁ヲ受クヘシ
- 第三條 稟議書ノ決裁ヲ受ケタルトキハ之ヲ出張命令トナシ出張命令通知簿(乙號書式)ヲ以テ主務課長ニ通知シ主務課長ハ本人ノ承諾印ヲ徵シ文書課長ニ返付スヘシ但辭令書ヲ用ヒタルトキハ此限ニアラス
- 第四條 出張ノ發着ハ其都度課長ノ認印ヲ得テ文書課ヘ報告スヘシ
- 第五條 文書課ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ出勤簿ヲ整理シ主務者認印シテ議事課ヘ送付シ議事課ハ旅費調査ノ材料トシテ之ヲ保管スヘシ
- 第六條 旅費支給規程(以下單ニ規程トス)第七條及第十一條ニ該當スト認ムルモノハ主務課長ニ於テ其事由ヲ詳記シタル具申書ヲ文書課長ヘ送付スヘシ
- 第七條 文書課長前條ノ具申書ヲ受領シタルトキハ議事課ヘ合議シ主務部長ヲ經テ決裁ヲ受ケ參事會ヘ付議ノ手續ヲ爲シ參事會決定ノ結果ハ之ヲ主務課長及議事課長ヘ通報スヘシ
- 第八條 規程第七條第十一條ノ事由罷ミタルトキハ主務課長ニ於テ其申報書ヲ文書課長ヘ送付シ文書課長ハ議事課ヘ合議主務部長ヲ經テ呈覽スヘシ
- 第九條 水道局瓦斯局十全醫院勤務ノ吏員ニシテ出張ヲ要シ又ハ規程第七條同第十一條ニ該當スルモノハ水道局瓦斯局ニ在テハ主幹十全醫院ハ事務長ニ於テ稟議又ハ具申スヘシ
- 第十條 旅費支給ニ關係ナキ市内出張ニ在テハ各課長主幹事務長限便宜之ヲ指示スルコトヲ得但各課

長ニ在テハ出勤簿整理ノ爲メ像メ文書課へ通報スヘシ

第十一條 書式甲號用紙ハ文書課ニ於テ豫メ之ヲ印刷ニ付シ便宜必要ニ應シ配付スルコトヲ得但別經濟ニ屬スルモノハ此限リニアラス

甲號書式

出張稟議

目的地及官衙 公署名	稱	日豫 數定	要 務 事 由	職 氏 名

右命令相成度候也

明治 年 月 日

市 長 宛

課長

乙號書式

月 日	要務及出張先等名稱	課 認 印 長	職 氏 名	受當 印人


(備考)

三十八年十二月總達第一九號ヲ以テ第九條及第十條中院長トアルヲ事務長ニ改ム

○市吏員賄料支給規程

二十二年(十二月) 規則第九號

第一條 宿直及夜業賄料左ノ通支給ス

市 吏 員 一 回 金 拾 錢

職工及使丁類 一 回 金 八 錢

但夜業ニ付増給ノモノハ此限ニアラス

第二條 宿直賄料ハ二回分ヲ支給ス

第三條 夜業賄料ハ午後八時ヲ過レハ一回分午後十二時ヲ過クレハ二回分徹夜ニ至ルモノハ三回分ヲ

支給スルモノトス

\* \* \* \* \*

(備 考)

三十二年四月告示第四〇號ヲ以テ規則第一條中七錢ヲ拾錢ニ六錢ヲ八錢ニ改ム

○市醫手當規程

市醫ノ手當ハ一ヶ月金貳拾圓以內トス

但其支給方ハ市吏員俸給支給規程ニ依ル

○小學校教員住宅料支給規程 三十四年五月告示第七三號  
及同 第七四號

第一條 本市公立小學校教員並幼稚園保母ニ住宅料ヲ支給ス  
第二條 住宅料ハ左表ニ依リ毎月之ヲ支給ス

職名	一戸ヲ構フルモノ		一戸ヲ構ヘサルモノ	
	市内ニ住居スルモノ	市外ニ住居スルモノ	市内ニ住居スルモノ	市外ニ住居スルモノ
本科正教員兼小學校長	四圓五拾錢	參圓五拾錢	貳圓	壹圓五拾錢
本科正教員又ハ同上ノ資格アル保母	參圓五拾錢	貳圓五拾錢	壹圓五拾錢	壹圓
專科正教員	參圓	貳圓	壹圓	七拾五錢
准教員又ハ同上ノ資格アル保母若クハ知事ノ免許ヲ有スル保母	貳圓五拾錢	壹圓五拾錢	七拾五錢	五拾錢

第三條 前條專科正教員ノ住宅料ハ一週ノ教授時數十八時間以上ノモノニ限リ支給ス但ニ校以上兼務ノモノハ教授時數ニ應シ各校ヨリ分割支給ス

第四條 新任轉任若クハ免職失職ノモノニ支給スヘキ住宅料ハ新任ノトキハ就職日其他ハ發令日ニ依リ日割計算トス

退職休職若クハ死亡ノトキハ其月ノ住宅料全額ヲ支給ス

第五條 第二條ノ住宅料額ニ彼此異動ヲ生シタルトキハ其當日迄ハ舊住宅料額其翌日ヨリハ新住宅料額日割計算ニ支給ス

第六類 小學校教員住宅料支給規程

第六條 毎月ノ住宅料ハ翌月七日迄ニ支給ス但免職失職若クハ轉任ニ係ルモノ又ハ第四條第二項ニ該當スルモノハ隨時支給ス

附 則

第七條 本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

○傳染病豫防救治ニ従事スル吏員手當 三十三年(九月) 告示第一四九號  
 傳染病豫防救治ニ従事スル市吏員ニシテ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スルモノニハ月俸二分ノ一以内ノ月手當又ハ一日五拾錢以内ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

○傳染病豫防救治ニ従事スル手當金ニ關スル規程 三十三年(九月) 告示第一五〇號

第一條 有給市吏員市費支給ノ醫師藥劑師看護人及ヒ給料ヲ受ケサル名譽職其他ノ職員ニシテ傳染病豫防救治ニ従事スル者公務ニ由リ病毒ニ感染シ又ハ之レニ原因シテ死亡シタルトキハ本規程ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條 手當金ハ左ノ四種トス

- 一 療治料
- 二 給助料
- 三 弔祭料
- 四 遺族扶助料

第三條 病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス病毒ニ感染シタル者治癒シタルトキハ給助料ヲ給ス病毒ニ感染シタル者死亡シタル者アルトキハ其遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス但シ遺族中扶助料ヲ受クヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助料ニ準ス

第四條 手當金額ハ左表ニ依リ一時之ヲ給ス

等級	給料額	療治料	給助料	弔祭料	遺族扶助料
一 等	俸給月額 百圓以上	一日金參圓	給六ヶ月分料	給一ヶ月分料	給一ヶ月分料
二 等	同 五拾圓以上	一日金貳圓五十錢	同	同	同
三 等	同 拾圓以上	一日金貳圓	同	同	同



第六類 傳染病豫防救治ニ従事スル手當金規程

一九八

四	等	同拾圓未滿	一日金壹圓	同	同	百拾圓
---	---	-------	-------	---	---	-----

第五條 名譽職其他給料ヲ受ケサルモノニ對スル手當金額ハ第四條ノ範圍内ニ於テ市參事會之ヲ定ム

## 第七類

### 學 事

○橫濱商業學校規則四十年五月改正

#### 第一章 總則

- 第一條 本校ハ商業ニ従事スル者ニ必要ナル修身學術衛生ヲ教授シ之レカ均一ノ進歩ヲ圖リ身體強健  
行狀端正ニシテ内外ノ商務ヲ處理シ得ル者ヲ養成スル所トス
- 第二條 本校ハ修業年限五ケ年ノ甲種商業學校トス
- 第三條 學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、地理、歴史、英語、經濟、法規、簿記、商品、理  
化學、圖畫、商事要項、商業實踐、衛生、体操トス
- 第四條 學年ハ四月一日ヨリ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第五條 學年ヲ分チテ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ七月三十一日マテ第二學期ハ八月一日ヨリ  
十二月三十一日迄第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日迄トス
- 第六條 教授時數ハ毎日六時間(土曜日ハ三時間)トス
- 第七條 休業日ハ日曜日、大祭日、祝日、創立紀念日(三月二十日)春季休業(四月一日ヨリ同七日迄)  
夏季休業(七月二十一日ヨリ九月十日迄)冬季休業(十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄)トス
- 第八條 生徒定員ハ五百人トス

#### 第二章 學科目課程及ヒ教授時數

第七類 橫濱商業學校規則

一九九

第九條・學科目課程每週時數及ヒ教授ノ要旨左ノ如シ

修身 教育ニ關スル 勅語ノ趣旨ヲ遵奉シ商業ニ從事スル者ニ必要ナル德義ヲ涵養スル爲メ特ニ左ノ諸項ヲ講明ス

- 一、正直 二、勉勵 三、正確 四、緻密 五、整頓 六、精察 七、機敏 八、謹慎 九、忍耐 十、注意

讀書 現時ノ國文ト簡易ナル漢文トヲ教授ス

習字 邦語及英語ヲ以テ商業上必要ナル信書ヲ書スル技能ヲ得セシム

作文 主トシテ實用ニ適スル文章ヲ作ル技能ヲ得セシム

數學 珠算、算術、商業算、代數、幾何ヲ教授シ計算ノ技能ヲ得セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシム

地理 内外國重要市場ノ位置交通ノ便否商工業ノ現況ヲ知ラシム

歷史 普通歷史ニ於テハ帝國ノ國牀并ニ外國ノ變遷盛衰ヲ知ラシメ商工歷史ニ於テハ内外商工業ノ起因發達ヲ講明ス

英語 讀書作文會話ノ技能ヲ得セシム

經濟 原理ヲ教ヘ之レヲ實地ニ應用シテ商機ヲ誤ラサル知能ヲ得セシム

法規 原理及商事ニ關スル法規ヲ講述シテ業務經營上必要ナル法律思想ヲ養成ス

簿記 管借ノ原理ヲ授ケ正確ニ帳簿ヲ組織スル技能ヲ得セシム

商品 製造品及天產物ノ品質ヲ鑑定シ其製法、用途、保存法、價格、荷造方法ヲ知得セシム

理化學 理化學ノ大意ヲ授ケ工業品及天產物ノ品質ヲ識別スル知能ヲ得セシム

圖書 商品ノ注文又ハ販賣ニ於テ必要ナル意匠及説明圖案ヲ製作スル技能ヲ得セシム

商事要項 内外商業ニ關スル慣習、書式及其使用法ヲ知得セシム

商業實踐 實踐科機關ニヨリ内外各種ノ商取引ヲ實習セシム

衛生 解剖生理ノ原則ト衛生ノ方法トヲ知得セシム

躰操 規律ヲ嚴守シ活潑勇敢ノ志氣ヲ養成スルト同時ニ身躰ノ發育及健康ヲ増進セシム

修身實踐 修身科ニ於テ講明シタル諸項ヲ嚴密ニ實踐セシメ其良習慣ヲ養成ス

衛生實踐 衛生科ニ於テ講明シタル衛生ノ方法ヲ實踐セシメ身躰ノ發育ト其健康ヲ増進セシム

科 目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週
修 身	一	人倫道德ノ要旨	一	上	一	上	一	上	一	上
讀 書	三	國漢文語	三	上	二	上				
習 字	二	楷、行、草	二	上						
字 洋	二	英、數、字	二	上						
作 文	二	普通文、商業文、文法、書取	二	上	二	上	二	上	二	上
數 珠	二	對算	二	上						

商記簿法經語英歴地學	銀行簿記	商業簿記	規	濟	譯文、文法	讀方、會話、書取、作文	譯讀	史	理	幾何	代數	算術		
													三	二
					二	三	四	二				三		
					文、和譯、英文法	讀方、會話、書取、作文	二	二	二			二		
二	一	三		二	二	三	二		一		二	二		
水農產物	和文記帳	和文記帳		原	二	三	二		內		初等代數	商業算術		
二	二	三	一	二	一	四	二		一	一	一	二		
工業製品	同上	英文記帳	通論	及應用	同上	同上	論說		外	平	同上	同上		
一			五	一		五	二	二	一	二		二		
			商事ニ關スル法規	應用		同上	同上	二	同上	同上		同上		

理化學	圖畫	商事要項	商業實踐	衛生	躰操	時數合計	修身實踐	衛生實踐
				一大意	四兵式	三三		
	自在畫			一同上	同上	三三		
	器畫			一同上	同上	三三		
				一同上	同上	三三		
				一同上	同上	三三		
				一同上	同上	三三		
				一同上	同上	三三		
				一同上	同上	三三		
				一同上	同上	三三		

備考 第五學年級幾何二時間ハ明治四十年度及四十一年度ノ二年間第五學年級ノ銀行簿記ニ流用ス

第二章 入學及退學

第十條 入學期ハ每學年ノ始メトス但シ時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ  
 第十一條 入學志願者ノ資格ハ滿十四年以上ニシテ品行方正ナル者トス  
 修業年限四ヶ年ノ高等小學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ讀書、算術、英語及躰格ノ試験ヲ行ヒ其他ハ左

ノ試験科目ニ合格スル者ヲ第一學年ニ入學セシム

一 讀書 漢字交リ文(讀方、解釋)

一 習字 楷、行、草

一 算術 筆算(比例)珠算(速算)

一 作文 記事文、普通信書

一 地理 内外地理大意

一 歴史 日本歴史大意

一 理化 大意

一 圖畫 自在畫

一 英語 讀方、譯解、書取

一 躰格

第十二條 府縣立中學校若シクハ之ト同等以上ノ認可ヲ受ケタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ甲種

商業學校等ヨリ轉學セントスル者ハ本校ノ學科課程ニ照ラシ不足セル學科目ニ就キ試験ヲ行ヒ相當

ノ學級ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條 第十一條ノ合格者カ募集定員ニ超過スルトキハ成績順ニヨリ入學セシム

第十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許可スヘキ者ノ資格ハ相當年齢ニ達シ且前各學年各科目ノ試験ニ合

格シタル者トス

第十五條 入學試験ノ評點ハ各科全點ヲ一百トシ各科四十點以上平均六十點以上ヲ得ル者ヲ以テ合格

トス

第十六條 入學志願者ハ左ノ願書及履歷書ニ寫眞(三ヶ月以内ニ撮影ニカ、ル手札形半身)ヲ添ヘテ差出スヘシ

入學願書式 (用紙半紙)

入學願書

私儀御校何學年ニ入學志願ニ付別紙履歷書添付此段相願候也

本籍 何府 何市 何町 何番地

族稱職業誰長男弟等

現住 何府 何市 何町 何番地

(振假名ヲ付スヘシ)

姓 名 印

年 月 日

生年月日

橫濱商業學校長某殿

履歷書式 (用紙同前)

學業 履歷書

一何年何月何地(官、公、私)立何學校ニ入り又ハ何所何某ニ就キ何年何月何學科修業又ハ卒業等(修業證書、卒業證書寫別紙ノ通)

賞罰  
一何年何月何日何々ニヨリ何賞罰ヲ受ク

以上

年月日

姓名印

第十七條

入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人同伴ニテ左ノ誓書、戶籍抄本ヲ添へ差出スヘシ

誓書式(用紙同前)

收入紙印

誓書

私儀今般入學御許可相成候ニ就キテハ御規則ヲ遵守シ専心ニ勉勵可致候也

本籍 何府何郡何市何町何村何番地

族稱職業誰長男弟等

現住 何府何郡何市何町何番地

年月日

本人姓名印

生年月日

右何某在學中御規則ヲ固ク相守ラセ候事ハ勿論退學後タリトモ同人在學中ニ係ハル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申候也

年月日

横濱市何町何丁目何番地

族稱職業父兄又ハ親戚

保證人 姓名印

生年月日

横濱商業學校長某殿

第十八條 保證人ハ左ノ資格ヲ有スル者トス

- 一 丁年以上ニシテ橫濱市ニ一戸ヲ構フル者
  - 一 父兄又ハ親戚(父兄又ハ親戚ナキトキハ生祖ノ一身上一切引受クルニ足ルヘキモノ)
- 第十九條 本人及保證人改印轉居ノトキハ速カニ届出ツヘシ
- 第二十條 保證人死亡又ハ其他ノ事故ニリ其變更ヲ要スルトキハ第十七條ノ書式ニヨリタル誓書ヲ添へ届出ツヘシ
- 第二十一條 生徒疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリ半途退學セントスル者ハ其事由ヲ具シ保證人連署届出ツヘシ
- 第二十二條 學校長ハ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノニハ退學ヲ命ス
- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
  - 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
  - 三 引續キ一ケ年以上缺席シタル者
  - 四 正當ノ理由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者
- 第二十三條 半途退學シタル者復校ヲ出願シタルトキハ學年ノ初メ試験ニヨラスシテ原學年若クハ其以下ノ學年ニ入學セシムルコトアルヘシ
- 第四章 試験進級及卒業
- 第二十四條 試験ハ各學期末ニ行ヒ第二十六條乃至第三十五條ノ採點法ニ據リ進級及卒業セシム
- 第二十五條 採點ハ平常及學期ノ二種トス
- 第二十六條 各科目評點ハ一百ヲ以テ最高點トス但シ數學、英語、簿記、習字ハ各分科目ノ最高點ヲ一百トス

- 第二十七條 採點當日ニ缺席ノ者ハ零點トス但シ事情ニヨリ退テ採點ヲナスコトアルヘシ
- 第二十八條 平常採點ハ學期末ニ至リテ加算シ採點度數ヲ以テ除シ之ヲ平常得點トス
- 第二十九條 修身實踐科ニ於テハ生徒日々ノ言行ニヨリ採點ス
- 第三十條 商業實踐科ニ於テハ左ノ六項ノ採點ヲ合計平均シテ得點トス
- 一、商業機關及内外商店ニ於ケル諸帳簿、通信書類、諸手形、諸書式ノ記入並ニ整理方ヲ檢案シテ評點ヲ附シタルモノ
  - 二、外國貿易實地調査ニ於テ其報告書ノ正確緻密及整頓ヲ檢案シテ評點ヲ附シタルモノ
  - 三、海外商況報告ニ於テ其報告ノ正確緻密及整頓ヲ檢案シテ評點ヲ附シタルモノ
  - 四、橫濱市況實地視察ニ於テ其報告ノ正確緻密及整頓ヲ檢案シテ評點ヲ附シタルモノ
  - 五、橫濱重要輸出入品帳簿並ニ統計表記入ニ於テ記入ノ正確緻密及整頓ヲ檢案シテ評點ヲ附シタルモノ
  - 六、貿易品賣買ニ於テ學期末ニ至リ其損益ヲ決算シ評點ヲ附シタルモノ
- 第三十一條 衛生實踐科ニ於テハ生徒日々ノ行爲及ヒ体格検査ニヨリ採點ス
- 第三十二條 學期末ニ於テ試験ヲ行ヒ其得點ヲ平常得點ト合計シテ二除シ以テ學期試験ノ得點トス但シ學期試験ヲ行ハサル科ハ平常得點ヲ以テ直チニ學期試験得點トシ平常採點シ得サルモノハ學期試験ノミニヨリ得點ヲ定ム
- 第三十三條 各學科ノ得點ヲ加ヘ學科數ニテ除シタルモノヲ學科平均得點トシ之ニ修身實踐科及衛生實踐科ノ得點ヲ加ヘ三除シタルモノヲ學期試験ノ總平均得點トス
- 第三十四條 學年末ニ於テ三回ノ學期試験各科得點數ヲ平均シ其成績ニヨリ及落ヲ定ム

第二十五條 學年成績ニ於テ各學科四十點以上ニシテ其平均及ヒ修身實踐科、衛生實踐科各六十點以上ヲ得タルモノヲ合格トス

第二十六條 席次ハ第三十九條乃至第四十二條ニ該當スル高點ヲ得タル優等者ヲ上トシ該條ニ該當セサルモノハ總平均得點數ニヨリ之ヲ定ム

第二十七條 第五學年ノ學年成績ニ於テ合格點ヲ得タルモノヲ卒業トス  
各科ニ於テ第三、第四、第五學年ノ得點ヲ合計シ三除シ得タルモノ各七十點以上(二學年ニ亘ル科ハ二除シ一學年ニ止マル科ハ其得點ヲ以テ之ニ充ツ)又學科平均點及修身實踐科、衛生實踐科各八十五點以上ヲ得タルモノヲ以テ優等卒業トス

第二十八條 學年及學期成績表ヲ各生徒ノ保證人ニ送附シ其閱覽ヲ證スル爲捺印セシム  
第五章 一般ノ獎勵

第二十九條 學年成績ニ於テ各學科九十點以上學科平均點及修身實踐科、衛生實踐科各九十八點以上ヲ得ルモノハ特別賞ヲ授與ス

第四十條 學年成績ニ於テ各學科八十點以上學科平均點及修身實踐科、衛生實踐科各九十五點以上ヲ得ルモノニハ甲賞ヲ授與ス

第四十一條 學年成績ニ於テ各學科七十五點以上學科平均點及修身實踐科、衛生實踐科各九十點以上ヲ得ルモノニハ乙賞ヲ授與ス

第四十二條 學年成績ニ於テ各學科七十點以上學科平均點及修身實踐科、衛生實踐科各八十五點以上ヲ得ルモノニハ丙賞ヲ授與ス

第四十三條 賞狀卒業證書及優等卒業證書式左ノ如シ

賞 狀

第何學年生

姓 名

學年成績優等ニ付特別(甲、乙、丙)賞何々ヲ授與ス

年 月 日

橫濱商業學校長 何 某 印

優等卒業證書

第何號

族 稱

姓 名

本校定ムル所ノ規則ニヨリ全科ヲ修了シ其成績優等ナリ因テ此證書ヲ授與ス

年 月 日

橫濱商業學校長 何 某 印

卒業證書

第何號

族稱

姓名

本校定ムル所ノ規則ニヨリ全科ヲ修了セリ因テ此證書ヲ授與ス

年月日

橫濱商業學校長 何 某印

第六章 特別獎勵

第四十四條 學年成績ニ於テ商業實踐科九十五點以上總平均九十五點以上ヲ得タルモノニハ商業實踐科優等證書ヲ授與ス尙該證書ヲ受クヘキ者ノ内最優等三名ヲ限リ金、銀、銅牌ヲ授與ス其證書書式左ノ如シ

商業實踐科優等證書

第五學年生

姓名

學年成績ニ於テ商業實踐科優等ニ付此證書並ニ金(銀、銅)牌ヲ授與ス

年月日

橫濱商業學校長 何 某印

第四十五條 學年成績ニ於テ修身實踐科百點總平均九十五點以上ヲ得ルモノニハ修身實踐科優等襟章(金色M字)ヲ授與シ一學年間佩用セシム其證書書式左ノ如シ

修身實踐優等證書

第何學年生

姓名

學年成績ニ於テ修身實踐科優等ニ付修身實踐科優等襟章ヲ授與ス

年月日

橫濱商業學校長 何 某印

第四十六條 學年成績ニ於テ衛生實踐科百點總平均九十五點以上ヲ得ルモノニハ衛生實踐科優等襟章(金色H字)ヲ授與シ一學年間佩用セシム其證書書式左ノ如シ



衛生實踐科優等證書

第何學年生

姓名

學年成績ニ於テ衛生實踐科優等ニ付衛生實踐科優等襟章ヲ授與ス

年月日

橫濱商業學校長 何 某印

第四十七條 第四十五條又ハ第四十六條ノ證書ヲ受クルモノニシテ尙衆生徒ノ模範タルヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ學校長ノ具申ニヨリ市長ハ其賞トシテ毎年各三名以内ヲ限リ一學年間授業料ヲ免除ス

第四十八條 第四十五條、第四十六條、第四十七條ニヨリ優等襟章又ハ授業料免除ノ特典ヲ得タルモノニシテ各學期試験ニ於ケル修身實踐科又ハ衛生實踐科ノ評點九十五點以下ナルトキ若シクハ平常ニ於テ其資格ヲ失フノ所爲アルトキハ優等襟章ヲ還納セシメ授業料免除ノ特典ヲ停止ス  
第四十九條 第四十八條ニヨリ授業料免除ノ特典ヲ停止スヘキ者アルトキハ學校長ハ其姓名及事由ヲ市長ニ具申ス  
第五十條 第四十九條ニヨリ校長ノ具申アルトキハ市長ハ其事由ヲ調査シ其月限授業料免除ノ特典ヲ停止シ其旨本人及保證人ニ通達ス

第七章 監督懲戒及賠償

第五十一條 職員ハ生徒ノ修身實踐及衛生實踐ヲ監督シ違反スルモノアルトキハ秘密ニ其非行ヲ訓誨シ尙改悛セサル者其他非行ハ甚タシキ者アルトキハ學校長ニ申告ス

第五十二條 學校長ハ前條ノ申告ニ基キ其輕重ニ從ヒ左ノ三項ニヨリ懲戒ス

- 一、 譴責
- 二、 停學
- 三、 放校

第五十三條 學校所屬ノ物品ヲ破損又ハ亡失シタルトキハ之ヲ賠償セシム

第五十四條 生徒ヲ懲戒ニ處シタルトキハ保證人ニ告知ス

第八章 授業料

第五十五條 授業料ハ一ヶ月金貳圓トシ毎月始業後五日以内ニ其月分ヲ徴收ス但シ八月ハ之ヲ徴收セス

第五十條ニヨリ授業料免除ノ特典ヲ停止セラレタル者ハ其翌月分ヨリ徴收ス

第五十六條 授業料ヲ定日ニ納附セサルトキハ直ニ其本人若クハ保證人ニ督促シ其通知ヲ發シタル日ヨリ七日以内ニ納附セサルトキハ出席ヲ停止ス

第五十七條 出席日數一ヶ月ニ滿タサルモ全額ヲ徴收ス

第五十八條 授業料ハ第四十七條ニ依ルノ外本校生徒ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當シ之ヲ納附シ能サルモノニ對シ其一部若シクハ全部ヲ免除スルコトアルヘシ  
一、 出征中ナル軍人ノ同籍内ニ在ル子弟

二、戰時若シクハ事變ニ際シ應召中ナル軍人ノ同籍内ニアル子弟  
 三、戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ同籍内ニアル子弟

第九章 圖書貸渡

第五十九條 生徒ニシテ圖書ヲ借用セント欲スルモノハ圖書係へ申出テ其許可ヲ得テ左式證書ヲ差出スヘシ

圖書借用證書	
某氏著	何號
一何書	何號
某氏著	何號
一何書	何號
計何冊	何號
右ノ通御校圖書正ニ借用仕候就テハ圖書貸渡規程堅ク相守リ可申候也	
年月日	現住所、學年
	借主 姓名 名印
	橫濱市何町何丁目何番地
	保證人 姓名 名印
	橫濱商業學校長何某殿

第六十條 借用圖書ハ鄭重ニ取扱フ可シ若シ汚損又ハ亡失シ若クハ返納ヲ怠リタルトキハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第六十一條 借用圖書ハ毎年七月二十日及學年末ニ於テ之ヲ返納セシム但シ圖書係ニ於テ必要アルトキハ何時タリトモ返納セシムルコトアルヘシ

第十章 服裝

第六十二條 生徒ハ所定ノ服裝ヲナスヘシ

第六十三條 六月一日ヨリ九月三十日迄夏服夏帽ヲ着用シ十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄冬服冬帽ヲ着用スヘシ但シ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第六十四條 生徒ノ服裝ハ左ノ如シ

品目	製式		色	品質
	夏	冬		
帽	冬帽ニ白ノ日覆ヲ用フ	帝國海軍形眼庇ハ表裏共黒ノ革願紐ハ四分ノ黒革願紐止メ釦ハ金色徑カ分ノ圓形ニシテ日章内ニY形ヲ現ハス	濃紺	絨
帽徽章	豎八分五厘ノY字形		金	眞鍮
冬服上衣	長(ジャケツ形)製襟立襟前下ハ角形腕骨ヨリ兩脇ノ下端ヲ裂ク大約三寸釦ハ金色徑七分ノ圓形ニシテ日章内ニY字形ヲ現ハシタルモノ胸一重五箇ヲ附シ左右ノ袖ニY字形ヲ現ハシタルモノ各二箇ヲ附ス		濃紺	厚地ヘル

靴	形狀適宜	黑	革
脚	ゲートル形	白	麻
外	乗馬形丈ケ靴 前面ニハ左右各一箇ヲ限ル 後裂ニ角製黒色卸各四箇ヲ附ス 各三箇收紐ニ二箇ヲ附シ頭巾止メ及	表濃紺裏 表絨裏毛 縹子	同
夏	普通ノ製式	同	同
夏	冬服ニ同シ	鼠色霜降	綾小倉地
冬	普通ノ製式	同	同

第六十五條 帽ノ徽章ハ學校ヨリ貸與ス卒業若クハ半途退學ノ時ハ之ヲ返納セシム但シ破損若クハ亡失シタルトキハ其實費ヲ賠償セシム

附 則

第六十六條 生徒心得ハ學校長之レヲ定ム

○橫濱商業補習學校規則

三十七年(五月) 改正

設置ノ主旨

第一條 本校ハ商業ニ従事セント欲スル者ニ小學教育ノ補習ト同時ニ商業上必要ナル知識技能ヲ授クル所トス

學 科

第二條 修身、讀書、習字、及ビ算術ノ四科目ヲ以テ補習科トシ速記法及印書術、簿記、商業算術、商業經濟、商業習慣、商業地理及ヒ商品并ニ外國語ノ七科目ヲ以テ商業科トシ外國語ハ第一年ニ於テハ英語ノミトシ第二年第三年ニ於テハ英語清語ノ内其一ヲ撰擇セシム  
但シ補習科ハ本校ニ於テ授クル所ノ程度以上ノ學力ヲ有スルモノニハ修身科ノ外之レヲ課セス又商業科ハ生徒各自ノ志望ニヨリ一科目又ハ數科目ヲ撰擇專修セシム

學科課程

第三條 學科課程左ノ如シ

學科課程表

科目	年 時		
	第一 年	第二 年	第三 年
修 身	一	一	一
讀 書	三		
習 字	四		
每週授業時間			

算術	四		
速記法及印書術			一
簿記		四	三
商業算術		三	三
商業地理及商品		一	二
商業習慣		一	一
商業經濟			
外國語	六	六	六
合計	一八	一八	一八

學年及修業年間

第四條 學年ハ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第五條 修業年限ハ三學年トス但シ學力優等ノ者ハ小試験ニ於テ臨時昇級セシムルコトアルヘシ

第六條 授業時間ハ毎夜三時ニシテ一週十八時間トス

第七條 休業日ハ日曜日、大祭日、祝日、七月二十一日ヨリ八月三十一日迄十二月二十六日ヨリ翌年一

月七日迄及大試験後一週間トス

入學及退學

第八條 入學ハ每學年ノ始トス但時宜ニヨリテハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第九條 入學生ハ男子ニシテ左ノ資格ヲ備フルモノトス

一品行善良ナル者

一 身體強壯ナル者

一 尋常小學卒業ノ者又ハ卒業セサルモノト雖學齡ヲ過キタルモノニシテ特ニ本校長ヨリ本校教科ノ全部若クハ一部ノ教授ヲ受クルコトヲ許可シタル者

第十條 入學願書、履歷書及入學證書ハ第一號乃至第三號ノ書式ニ準シテ之ヲ差出スヘシ

第十一條 保證人ハ丁年以上ニシテ橫濱市内ニ住居シ身元慥ナル戸主ニ限ルヘシ

第十二條 退學セント欲スルモノハ保證人ヨリ其旨ヲ届出ツヘシ

授業料

第十三條 授業料ハ一ヶ月金八拾錢トシ毎月十日迄ニ之ヲ納ム可シ但休業全月ニ涉ルトキハ授業料ヲ徵收セス

試験

第十四條 試験ヲ分チテ小試験、大試験ノ二種トシ小試験ハ一學年中四回大試験ハ學年ノ末一回之ヲ執行ス

評點

第十五條 各試験及日課評點ハ各科一百點ヲ以テ最高點トス

第十六條 小試験ニ於テハ各科ノ得點ニ日課得點平均數ヲ加ヘ之ヲ二ニテ除シ以テ小試験各科ノ得點トシテ各所得ノ和ヲ科目ノ數ニテ除シ之ヲ小試験得點平均トシ以テ席次ヲ定ム但シ教科目一部修業ノモノハ全部ノモノ、次席トス

第十七條 大試験ニ於テハ各科ノ得點ヲ以テ直ニ大試験各科ノ得點トシテ各科得點ノ和ヲ科目ノ數ニテ除シ之ニ小試験得點ノ平均ノ和ヲ小試験ノ度數ヲ以テ除シタル數ヲ加ヘ二ニテ除シタル者ヲ大小試験平均數トシ以テ席次ヲ定ム但一部修業ノモノハ前條但書ニ同シ

第十八條 品行點ヲ一百點トシ生徒平素ノ行狀ヲ監視シ不良ノ言行ヲ日課表ニ記入シ小試験毎ニ一百點ヨリ減去シ以テ小試験得點行狀點トシテ各小試験得點ノ和ヲ小試験ノ度數ニテ除シタルモノヲ大試験得點行狀點トス

及第及落第

第十九條 大試験ニ於テ行狀點六十點以上ノモノニシテ各科得點四十點以上(但シ一科修業者ハ六十點以上)及ヒ大小試験平均數六十點以上ノ者ヲ及第トス

卒業及優等行狀證書

第二十條 第三學年ノ大試験ニ於テ及第ノ者ハ第四號書式ニ依リ卒業證書ヲ附與シ且在學中行狀正シクシテ特ニ之ヲ表彰スヘキ實蹟アルモノニハ第五號書式ニ依リ行狀證書ヲ與フ

賞 與

第二十一條 大試験ニ於テ行狀點六十點以上ニシテ各科六十點以上(但シ一科修業者ハ九十點以上)及ヒ大小試験平均數九十點以上ヲ得ルモノニ甲賞ヲ與ヘ行狀點六十點以上ニシテ各科五十點以上(但シ一科修業者ハ七十五點以上)及ヒ大小試験平均數八十五點以上ヲ得ル者ニ乙賞ヲ與フ

罰 則

第二十二條 凡ソ命令規則ニ違背スルモノハ之ヲ罰ス

第二十三條 罰科ハ戒諭直立停學放校ノ四トス

教授ノ方法及ヒ目的

教授ハ専ラ商業實際ニ適切ナル新法ニ由リ之ヲ施行シ已ニ教授シタル學科ヲシテ直ニ實用ニ適セシムルヲ以テ目的トス左ニ各科教授ノ概要ヲ示ス

一 修身

勅語ノ主旨ヲ講シ特ニ商人ニ最モ必要ナル正直、精勵、周密、忍耐、謹慎ノ諸德ヲ説キ或ハ古今紳商ノ傳記ヲ引キ専ラ商人タルノ徳性ヲ涵養ス

一 讀書

郵便電信條例及ヒ銀行會社、商品取引所ノ規則等専ラ商業ニ關スルモノヲ教授シ讀書科補習ト同時ニ商業上必要ナル知識ヲ得セシム

一 習字

通信ニ適シタル迅速明瞭ノ法ニ由リ専ラ商業信書ヲ教授シ習字科補習ト同時ニ商業上必要ナル通信ノ技能ヲ得セシム

一 算術

加減乗除及ヒ利息算ヲ教授シ専ラ迅速ニシテ違算ナキヲカメシメ算術科補習ト同時ニ商業上必要ナル速記法及ヒ印書術ヲ得セシム

迅速明瞭ノ法ニ由リ専ラ商業ニ必要ナル速記及印書ノ技能ヲ得セシム

一 簿記

一般ノ定義ヨリ小賣、卸賣、問屋、仲買、及會社等ノ帳簿並ニ銀行簿記ヲ教授シ専ラ實用ニ適スル例題ヲ授ケ商業上必要ナル簿記ノ知識ヲ得セシム

一 商業算術

利息算、部分拂勘定、問屋仲買口錢勘定、爲換勘定、保險勘定及損益勘定等ヲ教授シ専ラ商業ニ適スル問題ヲ授ケ商業上必要ナル算術ノ知識ヲ得セシム

一 商業地理及商品

本港ヲ經由シタル輸出入商品ノ產地ニ付其位置、氣候、人口、産額、元價、製造季節、海陸運輸等及ヒ消費地ノ位置、氣候、人口、消費額、代價、消費季節、海陸運輸等ヲ教授シ實用ニ適切ナル地理並ニ商品ノ知識ヲ得セシム

一 商業習慣

本港實買取引ノ習慣手續及稅關通過内外國ノ爲換、銀行貸附借入、倉敷保險及運輸等ノ習慣手續ヲ教授シ商業上必要ナル習慣ノ知識ヲ得セシム

一 商業經濟

殖産貿易分配法ノ大意ヨリ勞力、資本、物價、貨幣、勞銀、利子及ヒ信用等ヲ教授シ専ラ實地ノ適例ヲ引用シ商業上必要ナル經濟ノ知識ヲ得セシム

一 外國語

英語ハ綴字、讀方、書取、文法、譯解、商業、會話商業信書ヲ教授シ商業上必要ナル商談通信ノ技能ヲ得

セシメ清語ハ音韻、單語、譯解、會話用字法、作文、談論、和文清譯、清文和譯ヲ教授シ商業上必要ナル談話、通信及書式ノ知識技能ヲ得セシム

生徒心得

第一條 勅語ノ主旨ヲ奉シ父兄師友ヲ敬愛シ家業ヲ貴重シ本校生徒タルノ面目ヲ保持スヘシ  
第二條 商人ニ必要ナル正直、精勵、周密、耐忍、謹慎ノ諸德ヲ養成センカ爲平素ノ言語舉動ニ於テ之ヲ實行スヘシ

第三條 實地成功ノ要素タル健康ヲ増進センカ爲平素ノ起居飲食ニ於テ衛生ノ法ヲ實行スヘシ

第四條 學校職員ノ命令訓誨ニ服從シ且諸規則ヲ遵守スヘシ

附 則

- 第一 始業柝聲ヲ聞カハ教場ニ入り各自ノ坐席ニ就クヘシ
- 第二 授業中ハ潜心課業ニ從事シ決シテ私語談笑スヘカラス
- 第三 休息時間タリト雖校内ヲ奔走シ或ハ高聲ヲ發スヘカラス
- 第四 欠課遅刻ヲナスヘカラス
- 第五 帽子外套其ノ他携帶品ハ必ス休息所ニ整置シ無用ノモノハ一切教場ニ携帶スヘカラス
- 第六 履履ニテ校内ニ昇降スヘカラス
- 第七 猥リニ燈火又ハ暖爐ニ手ヲ觸ルヘカラス
- 第八 樹木ヲ折ム或ハ墻塼ニ上リ又ハ瓦礫ヲ抛ツ等危險ノ行爲ヲナスヘカラス
- 第九 校物ノ取扱ハ専ラ鄭重ヲ旨トスヘシ又建物ヲ毀損シ或ハ戸壁等へ樂書塗抹等ナスヘカラス
- 第十 月謝納期ヲ誤ルヘカラス

第十一 轉宿シタルトキハ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ  
第一號書式

入學願書 (用紙中紙ニツ折一通)

私儀御校へ入學志願ニ付何卒御許可被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

(某子弟)

年 月 日

名 印

何年何月何日生

宿所町名番地

橫濱商業補習學校長某殿

第二號書式

學業履歷書

何年何月何日何所ニ入リ何學科何等級或ハ全學科或ハ何某ニ從學何年間受學用書何々(卒業證書ヲ有スルモノハ其寫ヲ添ユヘシ)

賞罰

何年何月何日何所ニ於テ何賞與ヲ受クル等

年 月 日

姓

名

第三號書式

入學證書

(用紙美濃紙ニツ折參錢印紙貼用)

在籍地族籍職業

(某子弟)

姓

名 印

何年何月何日生

宿所町名番地

右之者御校へ入學爲致候上ハ御校則堅ク爲相守可申ハ勿論常人身上ノ事ニ付キテハ拙者ニ於テ一切引受可申候也

橫濱市何町何番地

族籍職業

名 印

證人 姓

名 印

年 月 日

橫濱商業補習學校長某殿

第四號書式

卒業證書

番號

族 籍

姓

名

本校定ムル所ノ規則ニ依リ(教科ノ全部又ハ何々科)ヲ卒業セリ因テ此證ヲ授與ス

橫濱商業補習學校長某印

第五號書式

優等行狀證書

番號

族 籍

本校在學中行狀端正ニシテ特ニ表彰スルニ足ル因テ此證書ヲ授與ス  
 年 月 日 姓 名  
 橫濱商業補習學校長某印

○市立高等小學校授業料

四十年(三月) 告示第二六號

本市立高等小學校授業料ヲ左記ノ通定メ明治四十年度ヨリ同四十二年度迄徴收ノ件小學校令施行規則 第四百七十六號ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ得タリ

一ヶ月 壹 圓 七拾五錢 五拾錢  
 但特別ノ事情アルモノハ參拾錢迄遞減スルコトヲ得

○市立尋常小學校授業料

四十年(三月) 告示第二七號

本市立尋常小學校授業料ヲ一ヶ月貳拾錢ト定メ明治四十年度ヨリ同四十二年迄徴收ノ件小學校令施行規則第四百七十四條ニ依リ縣知事ノ認可ヲ得タリ

○小學校授業料棄捐ニ關スル規定

三十五年(三月) 達

小學校授業料ノ滯納者ニシテ所在不明ノモノハ市參事會ニ於テ之ヲ棄捐スルコトヲ得



## ○小學校校地校舍使用規程

三十六年十二月  
十七日 達

第一條 小學校ノ校舍校地校具又ハ休操場ヲ左記ノ集會ニ使用セントスルトキハ學校ノ風紀及教務上支障ナキ場合ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

- 一 教育ニ關スル諸集會
  - 二 一般體育ニ關スル諸集會
  - 三 農商工業ニ關スル諸集會
  - 四 衛生ニ關スル諸集會
  - 五 慈善ニ關スル諸集會
  - 六 法律ヲ以テ定メラレタル議會ノ議員投票所又ハ選舉會場
  - 七 市會又ハ區會
  - 八 學校設置區域内一町又ハ數町政治ニ關セザル公共的集會
  - 九 軍隊行軍演習又ハ召集徵發ノ實施ニ際シ必要ノ場合
- 第二條 前條使用ノ許可ヲ受ケントスルモノハ使用ノ目的物、使用期間、年月日時及使用ノ目的等ヲ詳具シタル申請書ヲ作り當該學校長ヲ經由シ管理者ニ願出ヘシ
- 第三條 小學校長前條ノ申請書ヲ接受セシトキハ事實ヲ取調教務上支障ノ有無ニツキ意見ヲ付シ直チニ管理者ニ提出スヘシ
- 第四條 使用ノ許可ヲ得タルモノハ使用中自ラ出頭スルカ若クハ相當責任アル代理者一名ヲ出頭セシメ使用物ニ對シ善良ナル管理人ノ爲スヘキ注意ヲ以テ之レカ使用ヲ爲シ且ツ學校ノ風紀ヲ害セサル様嚴重取締ヲ爲スヘシ

- 第五條 使用中ト雖トモ管理上差支ヲ生シタル場合ハ之レカ使用ヲ停止セシムルコトアルヘシ
- 第六條 使用時限ハ午前六時ヨリ午後十一時迄トス但シ特ニ管理者ノ許可ヲ得タル場合ハ此限ニアラズ
- 第七條 使用中ハ管理者又ハ學校長ノ指定シタル場所以外ニ於テ喫烟ヲ爲スコト又ハ校舎内外危険ノ虞アル場所ニ於テ點燈用トシテ石油ヲ用アルコトヲ許サス
- 第八條 階上ノ教室又ハ講堂ヲ使用スル場合ニ於テ危険ノ虞アリト思料スルトキハ入場人員ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第九條 使用中ハ當該學校職員ノ外市吏員ヲシテ隨時取締ヲナサシムルコトアルヘシ
- 第十條 使用者ハ取締員ノ指示ニ從フヘシ
- 第十一條 使用中物件ヲ毀損若クハ滅失シタルトキハ使用者ヲシテ市參事會ノ評價格ニ基キ之レカ賠償ヲナサシムルモノトス
- 第十二條 使用ヲ終ヘタルトキハ取締員ニ申告シ調査ヲ受クヘシ

○市視學職務規程

四十年(四月) 總達三號

- 第一條 視學ハ上長ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察ニ從事ス但必要ニ應シ命ヲ承ケ學事ニ關スル庶務ニ從事スルコトアルヘシ
- 第二條 視學ノ視察スヘキ事項ノ概目左ノ如シ
- 一 市立學校及幼稚園職員勤務ノ狀況并ニ品行
  - 二 教授管理及訓練ニ關スル事項
  - 三 市立學校及稚幼園ノ設備ニ關スル事項
- 市費補助ニ係ル學校及教育事業ノ視察ニ關シテハ前項ヲ準用ス
- 第三條 視學ハ視察ニ際シ左ノ事項ニ就テハ意見ヲ陳述シ若クハ當事者ニ注意スルコトヲ得
- 一 法令ノ明文及上司ノ訓示ニ抵觸スル事項
  - 二 教授管理及訓練ニ關スル事項
- 第四條 視學ハ視察ノ狀況并ニ意見ヲ具シテ復命スヘシ

第八類

衛生

○十全醫院規則

二十四年(四月) 規則第二號

第一條 十全醫院ハ病者ヲ治療シ及看護婦ヲ養成スル所トス

第二條 十全醫院ノ治療ヲ受ケントスルモノハ同院ニ申出ツヘシ若シ入院ヲ請フモノハ身元確實ナル

モノヲ保證人トシ引受證書ヲ差出スヘシ但外來患者ニシテ重症ニ至リ通院シ難キ場合ハ特ニ往診スルコトアルヘシ

第三條 入院患者ハ入院料ヲ納メ外來患者ハ藥價其他治療ニ要スル費用ヲ納ムヘシ其料額ハ別ニ之ヲ

定ム但貧困ナル市住民ノ疾病ニ罹リ他ニ保護スヘキ親戚故舊ナキモノニシテ市長ノ認定ニ依ル患者ハ藥價其他治療ニ要スル費用ヲ施シ若クハ無料ヲ以テ入院セシムルコトアルヘシ

第四條 入院料ハ一週間毎ニ外來患者ニ要スル費用ハ其都度十全醫院ニ納附スヘシ

第五條 看護婦養成ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 患者ノ取扱其他ノ細則ハ市參事會之ヲ定ム

\* \* \* \* \*

(備考)

二十七年八月告示第一〇三號ヲ以テ第三條改正

三十一年三月告示第二二號ヲ以テ第一條ヲ改正シ又新ニ第五條ヲ置キ從前ノ第五條ヲ繰下ク

三十三年四月告示第六六號ヲ以テ第三條但書改正

第八類 十全醫院規則

○十全醫院事務市長專決事項

三十八年(七月) 廳達第一六號

十全醫院事務市長專決事項別紙ノ通決定相成候條該事項中末項ヲ除クノ外決議ヲ待ツノ違ナキトキハ  
回議ヲ提出スルト同時ニ執行スルコトヲ得

(別紙)

十全醫院事務ノ内左記ノ事項ハ市制第六十八條ニ依リ專決處分スルコトヲ得  
明治二十四年<sup>五</sup>廳達第三號ハ之ヲ廢止ス

- 一 病者治療ニ要スル爲メ價格拾圓以内ノ備品消耗品及藥品ノ購入
- 一 見積價格參拾圓以内ニ於テ病室賄所(直接病者ノ治療ニ關係アル場所)及備品ノ修繕
- 一 看護人ノ任用及備人ノ備入

(備考)

三十九年八月廳達第一二號ヲ以テ第二號中五四ヲ參拾圓ニ改ム

○十全醫院入院料其他諸料金

入院料

特別一日 貳圓貳拾錢  
 二等一日 壹圓參拾錢  
 四等一日 八拾錢

諸料金

診察料 貳拾錢  
 体格検査料 五拾錢  
 診察書料 五拾錢

第二項ノ諸料金ハ入院患者ヨリ徴收セス

高價藥 實費  
 散藥 一日分 大人十三錢 小兒十一錢  
 頓服藥 一服分 大人八錢 小兒六錢  
 外用藥 一劑 十二錢  
 綑帶料 實費  
 シリンジ、吸入管、  
 ベツサリユーム等 實費

二十四年(四月)公布二十五年(三月)改正二十九年(五月)改正  
 三十年(四月)改正三十四年(九月)告示第一四五號改正  
 三十七年(四月)告示第四〇號改正

一等一日 壹圓六拾錢  
 三等一日 壹圓拾錢

手術料 五錢以上一圓  
 往診料 壹圓  
 處方箋料 壹圓

水藥 一日分 大人(十年未滿)十三錢 小兒十一錢  
 丸藥 一日分 大人十三錢 小兒十一錢  
 含嗽藥 一劑 十五錢  
 膏藥 一劑 十三錢  
 藥瓶料 實費

○十全醫院施療細則

二十七年(八月) 告示第一〇四號

第一條 本院ニ於テ施療ヲ受ケントスル者ハ本人又ハ親族等ヨリ市長ニ申立テ施療券ヲ受ケ施療ヲ受ケル毎ニ必携帶スヘシ

第二條 施療券ハ二週間ヲ以テ期限トス但本院ニ於テ引續キ治療ノ必要アリト認ムルトキハ院長ハ市長ニ上申シ市長ハ更ニ施療券ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ出願者アルトキハ市長ニ於テ其實ヲ審査シ別紙様式ノ施療券ヲ付與スヘシ

第四條 施療人員ハ施療費一人一日金十錢ノ割ヲ以テ豫算ノ範圍内ニ於テ市參事會之ヲ定ム

第五條 施療患者ノ全治死亡休業又ハ施療期限經過スルトキハ其施療券ヲ返納スヘシ

第 號

貧民施療券

住所職業氏名年齢

右十全醫院施療細則第二條ニ據リ之ヲ付與ス

横濱市役所

年月日

施療期限

○赤十字社看護婦生徒藥價

三十三年(四月) 告示第六八號

横濱市十全醫院ニ於テ養成スル赤十字社看護婦生徒服藥ヲ要スルトキハ當分ノ内藥價其他治療ニ要スル外來患者費額ノ半額ヲ徴收ス

第八類 十全醫院施療細則 赤十字社看護婦生徒藥價

○十全醫院看護婦養成規則

三十九年(三月) 規則第二號

第一條 十全醫院ニ於テ看護婦ヲ養成スルハ總テ此規則ニ據ルモノトス

第二條 看護婦養成ニ關スル一切ノ事務ハ市長ノ指揮ニ從ヒ十全醫院事務長之レヲ管理ス

第三條 看護婦養成教員ハ十全醫院醫員ヲ以テ之レニ充テ市長之レヲ任免ス

第四條 看護婦卒業後ハ滿二ケ年間横濱市立病院若クハ救護所ニ於テ看護婦ノ職務ニ從事スルノ義務ヲ有ス

第五條 看護婦生徒志願者ハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス

一 年齢十七年以上三十五年以下ノモノニシテ就學年間及看護婦締約期間家事ニ係累ナキモノ

二 体格強壯性質淳良ナル者

三 從來經歷及品行上瑕瑾ナキ者

四 高等小學二學年修業以上若クハ之レト同等ノ學力ヲ有スル者

五 本市公民ノ資格ヲ有スル證人一名アル者

第六條 看護婦志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘ十全醫院ニ差出スヘシ

第七條 十全醫院ニ於テハ隨時志願者ヲ試験シ及第者ヲ生徒候補者ト爲シ看護法ヲ見習ハシ毎年四月

出願ノ順序若クハ試験ノ成績ニヨリ若干名ヲ生徒ニ編入ス

第八條 試験科目ハ左ノ五項トス

一 体格

二 應問

三 讀書 小學讀本ノ内

四 作文 簡易往復文  
五 算術 加減乘除

第九條 試験ニ及第シタル者ハ第三號書式ノ入學證書及第四號書式ノ誓約書ヲ差出スヘシ  
第十條 修學年期ハ一ケ年トナシ學年ヲ二期ニ分チ前期ハ每年四月ヨリ九月マテトシ後期ハ十月ヨリ翌年三月マテトシ一晝夜ノ内一時間ヲ以テ學業ニ充テ(看護學ノ大意ヲ口授ス)其他ハ總テ實地練習ニ充ツ

第十一條 學年ノ終ニ試験ヲ行ヒ及第ノ者ハ市長ノ是認ヲ經テ卒業證書ヲ授與ス  
卒業證書ノ署名ハ十全醫院長トス

第十二條 生徒中疾病其他事故アリテ學課ヲ修ムル能ハサルモノハ若干月間復習セシムルコトアルヘシ

第十三條 生徒ハ實地練習トシテ入院患者ノ需メニ應シ附添看護ニ従事セシメ其看護料ハ醫院ノ收入トス  
附添看護ニ従事セサル生徒ヲ生シタルトキハ實務ニ服セシム

生徒候補者ハ專ラ實務ニ服セシムルト雖トモ附添看護婦缺乏ノ場合ハ本條第一項ヲ適用スルコトアルヘシ

第十四條 生徒及生徒候補者ニハ手當トシテ日額金貳拾五錢以内ヲ給シ一切ノ費用ヲ支辨セシム但規定ノ服、帽ハ十全醫院ニ於テ之ヲ貸與ス

第十五條 生徒ハ請願ヲ以テ歸省又ハ退學ヲ許サス然レトモ疾病若クハ品行不正怠惰等ニシテ卒業ノ目的ナシト認ムルトキハ退學ヲ命スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ情狀ヲ斟酌シテ已ニ給シタル

手當ノ半額以内ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十六條 保證人居所轉換又ハ身上ノ異動アルトキハ其都度届出ヘシ  
第一號書式

看護婦生徒願

某儀

十全醫院看護婦志願ニ付採用被下度別紙履歷書相添此段相願候也

何府縣士族(平民)

戶主 某何女姉妹等

本籍何國郡(市)町村番地

現住何國郡(市)町村番地(寄留)

何 某印

何年何月何日生

前書ノ者性質淳良品行方正ニシテ曾テ不正ノ行爲ナキヲ保證候也

何府縣士族(平民)

横濱市町番地住(寄留)

保證人 何 某印

前書出願ノコトヲ承諾致候也

父(兄夫) 何 某印

横濱市長宛



第二號書式

履 歷 書 (自筆)

何府縣士族(平民)

何

某

何年何月何日生

一 普通學科(裁縫)研修ノ始終年月日及年間學校又ハ教師名

一 公務從事ノ始終年月日及年間俸給等ノ額

一 賞罰ノ要領

右ノ通相違無之候也

年 月 日

何

某印

第三號書式

入 學 證 書

某

儀

今般十全醫院看護婦生徒ニ御採用相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ可相守ハ勿論萬一不勉強又ハ不品行等ニシテ退學ヲ命セラレ養成規則第十五條ニ依リ手當辨償方御通達ノ節ハ直ニ辨償可仕若シ自分辨償難致節ハ保證人ヨリ相納可申候依テ證書如此候也

何府縣士族(平民)

戶主 某何女(姉妹)

本籍何國郡(市)町村番地

現住何國郡(市)町村番地(寄留)

何

某印

何年何月何日生

前書之通相違無之本人身上ノ儀ハ何事ニ限ラス私引受可申候依テ保證候也

何府縣士族(平民)

横濱市町番地(寄留)

保證人 何

某印

年 月 日

横 濱 市 長 宛

第四號書式

誓 約 書

某

儀

今般十全醫院看護婦生徒ニ御採用相成候ニ付テハ在學中ハ致々修學可仕ハ勿論卒業後二ケ年間ハ身上ニ何等ノ事故アルモ横濱市立病院若クハ救護所等ニ於テ看護婦ノ業務ニ從事可仕依テ誓約如件

何府縣士族(平民)

戶主 何某婦(姉妹)

本籍何國郡(市)町村番地

現住何國郡(市)町村番地(寄留)

何

某印

前書之通相違無之依テ保證候也

年 月 日

橫濱市長宛

何府縣士族(平民)  
橫濱市町番地(寄留)  
保證人 何

某印

○十全醫院處務規程

三十八年(六月)  
總達第一四號

第一章 總 則

- 第一條 十全醫院ニ醫務局、藥劑局、事務局ヲ置ク
- 第二條 醫務局藥劑局ニ局長ヲ置キ事務局ニ事務長ヲ置ク
- 第三條 醫務局長ハ副院長、藥劑局長ハ調劑係事務長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 院長ハ醫務局藥劑局ヲ監督シ病者治療看護婦養成等ノ責ニ任ス
- 第五條 醫務局長、藥劑局長ハ院長ノ指揮監督ヲ承ケ局務整理ノ責ニ任ス
- 第六條 事務長ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ事務整理ノ責ニ任ス
- 第七條 醫務局員藥劑局員ハ局長事務局員ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ各擔任ノ事務ニ從事ス
- 第八條 局長又ハ事務長事故アルトキハ其局次席者之ヲ代理ス
- 第九條 看護人ノ服務章程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 事務分掌

第十條 各局ノ事務分掌左ノ如シ

醫 務 局

- 一 病者ノ治療ニ關スル事
- 一 病床日誌、處方録、處方箋及患者表調製ニ關スル事
- 一 醫按、診斷書ニ關スル事
- 一 在院患者ノ食品監督ニ關スル事
- 一 看護人ノ能否視察ニ關スル事

- 病室ノ清潔及取締ニ關スル事
- 醫用器具書籍等保管ニ關スル事
- 傳染病報告ニ關スル事
- 醫局日誌醫局宿直日誌通院患者及入退院患者簿ニ關スル事
- 藥劑局
  - 調劑ニ關スル事
  - 藥品其他衛生上ノ試験ニ關スル事
  - 藥劑局所在ノ藥品保管ニ關スル事
  - 處方箋ノ整理及保管ニ關スル事
  - 調劑ニ關スル器具及書籍等保管ニ關スル事
- 事務局
  - 印章管守ニ關スル事
  - 職員ノ身分ニ關スル事
  - 出勤簿ニ關スル事
  - 文書ノ收受發送及編纂保管ニ關スル事
  - 記録及計算ニ關スル事
  - 看護人及使丁取締ニ關スル事
  - 土木及營繕ニ關スル事
  - 豫算及決算ニ關スル事

- 財産ノ管理ニ關スル事
- 收入支出命令ニ關スル事但權收金及一時寄托金ヲ除ク
- 財産ノ處分ニ關スル事
- 財産明細表ニ關スル事
- 使用料及手数料ニ關スル事
- 院内ノ取締ニ關スル事
- 宿直ニ關スル事
- 患者名簿調製及保證書徵收ニ關スル事
- 患者異變ノ通知及死体引渡ニ關スル事
- 物品ノ購入及保管ニ關スル事
- 賄所ノ監督ニ關スル事

第三章 執務順序

- 第十一條 到達文書ハ事務局ニテ開封シ收受件名簿ニ登錄受付番號ヲ記入シ事務長ノ閱覽ヲ經テ之ヲ  
事務局ニ配付スベシ但親展書ハ直チニ其宛名ヘ送付スベシ
- 第十二條 主任者ニ於テ局長若クハ事務長ヨリ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ即日處分案ヲ起草シ回覽  
ニ止マルモノハ直チニ其手續ヲ爲スヘシ但本條ニ據リ難キモノハ其事由ヲ申立局長又ハ事務長ノ指  
揮ヲ受クヘシ
- 第十三條 文書ヲ發送スルトキハ文書及其回議ニ發送番號及年月日ヲ記入シ校合ノ上事務長ノ閱覽ヲ  
經ヘシ

第四章 服 務

第十四條 服務時限ハ別ニ定ムル處ニ依ル

第十五條 吏員昇院スレハ即時自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第十六條 病氣其他ノ事故ニヨリ遅參若クハ缺勤シタルトキハ出務時限後二時間内ニ其事由ヲ届出ツ

ヘシ但病氣ニ因リ缺勤日數七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十七條 執務時間中疾病其他ノ事故ニヨリ退院セントスルトキハ局長又ハ事務長ノ承認ヲ受ケ其届

書ヲ事務局ニ提出スヘシ

第十八條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺勤シタルトキハ自己擔任ノ事件ニ處分ノ見込ヲ付シ遺漏ナク同僚

ニ通告スヘシ

第十九條 事務繁劇ノトキハ執務時間ニ拘ラサルハ勿論休日ト雖モ事務ニ從事スヘシ但擔任者ニ於テ

其事務ヲ處辨シ得サルトキハ局長又ハ事務長ノ指揮ニ依リ互ニ補助スヘシ

第二十條 院長在院ノ間ハ局長退院スルコトヲ得ス醫員調劑係及書記ノ局長事務長ニ於ケル亦同シ

第二十一條 解職轉任ノトキハ三日以内ニ擔任ノ事務ヲ同僚若クハ後任ニ引繼クヘシ

第二十二條 退院後院内若クハ近傍ニ非常事變アルトキハ直チニ登院シ局長又ハ事務長ノ指揮ヲ受ク

ヘシ

第五章 宿 直

第二十三條 宿直ハ醫務局員三名以内調劑係及書記(事務長ヲ除ク)各一名輪番ヲ以テ之ニ充ツ

第二十四條 宿直時限ハ退院時限ヨリ翌日昇院時限迄トス休暇日ハ當日昇院時限ヨリ退院時限迄トス

第二十五條 宿直中ニ起リタル事件ハ第二章ノ分擔ニ則リ各員分任之ヲ處辨スヘシ

第二十六條 宿直中ニ取扱タル事項ハ宿直日誌ニ詳記シ翌日事務長ニ提出スヘシ但醫務及調劑ニ關ス

ル事項ノ記事アル時ハ事務長ハ之ヲ其關係局長及院長ニ回覽スヘシ

(備 考)

三十九年四月廳達第四號及全年七月廳達第一一號ヲ以テ第十條事務局分掌中追加

○十全醫院服務時限 三十八年(六月) 廳達一五號

其院服務時限左ノ通心得ヘシ但大祭祝日日曜日土曜日ハ此限リニアラス

- 三月一日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 七月十一日迄 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
- 七月十一日ヨリ 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
- 九月十一日迄 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 九月十一日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 十一月一日ヨリ 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル
- 翌年二月末日迄

(備 考)

三十九年七月廳達第一〇號ヲ以テ七月十一日ヨリ九月十日マア午後二時トアリシヲ正午十二時ニ至ルト改ム

○十全醫院看護人服務章程

三十九年(二月) 臨決第二號

第一條 看護人ハ患者ノ看護其他各擔任ヲ命セラレタル勤務ニ従事スルモノトス

第二條 看護人ハ誠實懇篤ヲ守リ言語動作總テ柔順靜肅ヲ主トスヘシ

第三條 看護長ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 主任看護人ノ配置及變更等ニ付キ意見アルトキハ醫務局并事務局ニ申立ツルコト
  - 二 看護人ノ部屬ヲ定ムルコト
  - 三 主任看護人ノ職務ニ就キ監督ヲナスコト
  - 四 主任看護人ノ勤怠行狀ヲ視察スルコト
  - 五 主任看護人中事故アルトキハ他ノ主任ヲ以テ處辨セシメ又ハ自ラ之レカ任ニ當ルコト
- 主任看護人ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 部屬看護人ノ看護ヲ監督スルコト
- 二 部屬看護人ノ洒掃ニ付監督ヲナスコト
- 三 部屬看護人ノ勤怠行狀ヲ視察スルコト
- 四 毎朝患者ノ狀況ヲ主任醫員ニ申告スルコト  
但必要アルトキハ隨時申告スルコト
- 五 病室ノ取締又ハ患者ノ經過ニ障害アリト認ムヘキコトハ直ニ主任醫員ニ申告スルコト
- 六 諸物品ノ保管及出納ヲ整理スルコト

第四條 看護人ハ病室診察室ハ勿論自己ノ居室并ニ廊下等ニ付テモ清潔ヲ旨トシ時々掃除ヲナスヘシ

- 第五條 看護長事故アルトキハ次席者之ヲ代理ス
- 第六條 看護人ハ院内ニ寄宿スルヲ要ス
- 第七條 看護人ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ患者若クハ見舞人付添人等ヨリ贈物ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 看護人ハ毎日執務時限前ニ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第九條 看護人疾病其他ノ事故ニ依リ勤務ヲ離レントスルトキハ看護長ニアリテハ事務長ニ其他ノ看護人ニアリテハ看護長ニ申出指揮ヲ待ツヘシ但勤務ヲ離レントスルニハ先ツ主任醫員ノ承諾ヲ得ルヲ要ス
- 第十條 看護人疾病其他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ其事由ヲ事務長ニ届出ツヘシ
- 前項ノ場合ニ依リ外泊ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ事務長ニ申出テ許可ヲ受ヘシ
- 第十一條 面會人ニ接見スルハ應接室ニ於テ之レヲ爲シ自己ノ室内ニ引見スルヲ得ス
- 第十二條 看護人ハ互ニ金錢物品ヲ貸借スルヲ得ス
- 第十三條 看護人ハ勤務中ハ必ス制服制帽ヲ着スヘシ
- 第十四條 本章程ハ看護婦生徒ノ練習勤務ニ服スルモノニモ準用ス

○萬治病院規則

二十四年(四月)規則第三號

- 第一條 萬治病院ハ本市内ニ於テ發病シタル傳染病者ニシテ豫防上自宅ニ於テ治療セシメ難キモノヲ入院セシムル所トス
- 第二條 (二十八年四月規則第一號ヲ以テ削除)
- 第三條 入院患者ハ特ニ院外醫師ノ診斷治療ヲ受ケ又ハ付添看護人ヲ使用スルコトヲ得
- 第四條 患者入院中ノ費用ハ總テ自辨トス
- 第五條 入院料ノ額ハ別ニ之ヲ定ム
- 第六條 患者取扱其他ノ細別ハ市參事會之ヲ定ム

(備考)

三十三年(八月)告示第一三〇號ヲ以テ萬治病院ト改稱ス

○傳染病院改稱

三十四年(四月)告示第二七號

- 一 青木町字北三ツ澤三千四百九十六番地所在  
横濱市萬治病院第一分院(元神奈川傳染病院)

○萬治病院入院料 二十四年(四月) 告示第四五號  
 特別入院料 一日金一圓二十錢 普通入院料 一日金三十錢 (三十五年(二月) 告示第三號改正)  
 但萬治病院規則第三條ノ場合ニ於テ本院ノ藥劑ヲ服用セス若クハ看護人ヲ使用セサルトキハ入院料ノ内ヨリ本院所定ノ藥價若クハ看護人料ヲ扣除ス

○消毒所規則 二十四年(四月) 規則第四號

第一條 消毒所ハ傳染病毒ニ感染ノ虞アリト認ムルモノヲ消毒スル所トス  
 第二條 消毒所ノ費用ハ總テ市費ヲ以テ支辨スルモノトス

○掃除方法 三十三年五月十九日達

第一條 汚物掃除法第二條第三條ニ依リ左ノ區別ヲ以テ掃除ス

一 義務者ノ蒐集シタルモノ

塵芥ノ掃除ハ一日乃至三日ニ壹回トシ各之レヲ指定ス

汚泥ノ掃除ハ壹年四回以上トス但シ期日ヲ定メ義務者ニ通告シ順次施行スル事

一 公共便所ノ掃除ハ壹日壹回トス

公共溝渠ノ掃除ハ隨時之ヲ爲シ壹ケ年貳回以上ノ浚渫ヲナスコト

一 橋梁共同物揚卸場等ノ掃除ハ三日以内壹回トス

一 河川中ノ掃除ハ連日傳馬船壹艘又ハ貳艘ヲ使用シテ之ヲ爲ス

第二條

汚物ノ掃除ハ請負トシ左ノ要件ニ依ラシム

一 蒐集スベキ汚物ハ塵芥、汚泥、魚、鳥、獸ノ死屍、草木瓦礫其他ノ廢棄物ヲ總稱スルモノトス

一 蒐集シタル塵芥ハ一定ノ場所ニ於テ消毒ノ目的ヲ達スルヲ限度トシ之ヲ焼却スルモノトス

一 焼却シ難キ瓦礫ノ類ニ對シテハ適當ノ棄場ヲ設ケ汚泥、汚水ハ本市所定地へ運搬スベシ

一 焼却場ハ勉メテ完全ノ裝置ヲナシ壹日間蒐集シタル容量ヲ壹日間ニ焼却シ得ルノ設備ヲナス

ベシ

一 汚物ノ運搬ニ關スル容器及荷車ハ臭氣ノ發散ヲ防キ汚物ヲ露出セザル様裝置ヲナスベシ

一 汚物ノ運搬船數ハ汚物ノ船積場へ堆積セザルヲ限度トシ且ツ適當ノ覆蓋ヲ設クベシ

一 塵芥船積場ニ於テ塵芥ノ種類ヲ分撰セズ直ニ運送船ニ移シ之ヲ所定ノ場所ニ運搬シ清潔ヲ保

持スベシ



- 一 人夫器具等ハ所定數ヲ缺カス日々巡視員ノ點檢ヲ受クベシ
  - 一 人夫ハ記章アル一定ノ服裝ヲ爲サシムベシ
  - 一 人夫器具等不適當ト認ムルハ變換改良ヲ爲サシムベシ
  - 一 衛生組合其他ヨリ船積場ヘ汚物ヲ運搬シタルトキハ之ヲ受取り直ニ船ニ移スベシ
  - 一 請負人及人夫ニ於テ市民ニ對シ掃除ニ關シ種々ノ口實ヲ設ケ金錢物品等ヲ請求スベカラズ若シ之レヲ受ケタル者アリタル時ハ請負人ニ於テ辨償ノ責ニ任ズベシ
  - 一 掃除時間ハ午前六時ヨリ午後五時迄トシ時宜ニ依リ伸縮セシムルコトアルベシ
  - 一 請負人ハ請負金額十分ノ一ノ保證金ヲ豫納ス
  - 一 請負人ニ於テ命令ニ違背スル場合ハ市ニ於テ相當ノ處分ヲナシ實費ノ辨償ヲ爲サシメ又ハ請負契約ヲ解除シテ保證金ヲ沒收スルコトアルベシ
- 第三條 塵芥焼却場設備落成迄ハ船積ノ上既定ノ棄場其他差支ナキ地ヘ運搬スベシ

第九類

土 木

○工事入札規程 三十一年六月十四日達

- 第一條 入札人ハ市參事會ニ於テ定ムル所ノ設計書仕様書仕様書繪圖面及請負契約證案等熟覽ノ上此工事入札規程ニ據リ入札スヘシ
- 第二條 入札人ハ公告シタル日時迄ニ仕様書ニ金員ヲ記入シ署名捺印ノ上之ヲ封緘シ其表面ニ入札ノ事項及自己ノ住所氏名ヲ記載シタル入札ニ左ノ證明書及保證物ヲ添ヘ掛員ニ差出スヘシ
- 一 滿一ケ年以上ノ工事請負業ニ従事シタルコトヲ市町村長又ハ區長ニ於テ奧書シタル證明書但市參事會ニ於テ明ニ請負業者タルコトヲ認知シ得ヘキモノハ本證明書ヲ要セス
  - 二 入札公告ニ示シタル所ノ入札保證金ヲ本市現金取扱所ニ預ケ入タル預リ手形若クハ同額以上ノ市參事會ノ示命スル所ノ保證物
- 第三條 開札ハ公告シタル場所日時ニ入札人ノ面前ニ於テ執行ス開札ハ二名以上ノ入札人アルニアラサレハ之ヲ執行セス入札人若シ一名ナルトキハ其入札ヲ棄却シ更ニ再入札ニ付スヘシ但入札者一名ニ止マルモ開札スルコトアルヘシ
- 第四條 入札人又ハ其代理人開札ノ場處ニ立會ハサルトキハ其入札ヲ無効トシ入札保證金ヲ沒收スヘシ左ノ事項ノ一ニ當ル者ノ入札ハ無効トス
- 一 入札價額ハ最低ニ屬スト雖モ其仕様書記載ノ金員彼此輕重ヲ顛倒シ若クハ全体ノ見積價額不相當ト認メタルモノ

- 二 仕譯書記載ノ金額又ハ氏名ノ認知シ難キモノ
- 三 此入札規程ニ抵觸シタルモノ
- 第五條 入札人ノ代理者ハ入札前委任狀ヲ掛員ニ差出スヘシ
- 第六條 無効ニ屬スル入札二個以上アリタル場合ニハ再入札ニ附スル事アルヘシ
- 第七條 入札ハ市參事會ニ於テ定ムル所ノ豫定價額以下ノ入札ニ就キ最低價額ノモノヲ採用ス其入札價額悉ク該豫定額ニ超過シタルトキハ其入札ハ全然棄却シ更ニ再入札ニ付スヘシ
- 第八條 落札トナルヘキ入札ニ同額ノモノ二名以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム落札トナルヘキ入札仕譯書中數量金額等ニ違算誤記アルトキハ入札人ハ其入札價額ヨリ増減セサルヲ限度トシテ直ニ訂正仕譯書ヲ差出スヘシ
- 第九條 入札保證金ハ開札後直ニ還付スト雖モ落札人ニ係ルモノハ請負契約證提出ノ後ニアラサレハ之ヲ還付セス
- 第十條 落札人ハ請負ヲ命セラレタル日ヨリ三日以内ニ請負契約證ヲ提出スヘシ
- 請負契約證ニ連署スヘキ保證人ハ本市ニ於テ土地及ヒ家屋ヲ有スル本市住民ニ限ル
- 第十一條 請負保證金ハ請負價額ノ百分ノ十乃至二十ノ範圍内ニ於テ開札後市參事會之ヲ決定ス落札人ハ市參事會ノ決定シタル請負契約保證金ノ多寡ニ付キ爭フコトヲ得ス
- 請負契約保證金ハ現金ヲ以テ請負契約證提出前ニ市參事會ニ納付スルヲ要ス若シ現金ヲ以テ納付シ難キ場合ハ市參事會ノ示命スル擔保品ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得
- 第十二條 第八條第二項第十條及第十一條ノ手續ヲ履マサルモノハ其落札ヲ取消シ領置シアル入札保證金ヲ沒收スヘシ

第十三條 本工事入札規程ニ據リ締結シタル契約書(浚泥船ニ限リ第十七)第十五ニ據リ請負ノ解除ヲ命セラレタルモノハ其月ヨリ起算シ向フ滿一箇年間市ノ公入札ニ加ハルヲ得ス

印紙貼用  
請負契約證

一何々工事

此請負價額金

此請負契約保證金

右ハ何年何月何日御執行ニ係ル入札ノ結果腹書ノ價額ヲ以テ請負御命令相成候ニ付テハ左ノ事項堅ク遵守致スヘク且本契約履行ニ付テハ保證人ハ請負人ト同一ノ責ニ任ス可ク候依テ連署ヲ以テ本契約證差出候也

- 一 工事ノ方法ハ別紙設計書仕譯書及繪圖面ニ據ルノ外詳細ノ點ハ掛員ノ御指揮ニ服従スヘキ事
- 二 着手期限ハ本契約證ノ日付ヨリ何日以内トシ其竣功期限ハ同何日以内ノ事
- 三 竣功期限ヲ遅延シタルトキハ其遅延日數ヘ本請負價額ノ百分ノ一ヲ乘シタル金額ヲ違約金トシテ該價額ヨリ控除シ沒收相成候共異議無之事
- 四 工事跡請負期限ハ其全部竣功ノ検査證御下附ノ日ヨリ何日間トシ此期間ニ起リタル損害ハ總テ請負人ニ於テ負擔致スヘキハ勿論御指定ノ期日内ニ御指揮通り修理致スヘク若シ此修理ヲ怠リタル爲メ隨意御修理相成候場合ニ於テハ本契約保證金ヲ以テ其費用ヲ償フニ足ラサルトキハ其不足額ハ御追徴次第速ニ納入致スヘキ事
- 五 工事ニ使用スル材料ハ掛員ノ御検査ヲ經テ檢印ヲ受クヘキニ依リ若シ無検査ノ材料ヲ使用シタルトキハ其代價ノ仕拂ヲ御否認相成候共異議無之事

但検査済ノ材料ト雖トモ使用前ニ於テ生シタル損害ハ總テ請負人ニ於テ負擔致スヘキ事  
六 工事施行中ハ最終工場ヲ離レ爾後若シ止ヲ得ヌシテ代理人ヲ差遣バサントスルトキハ豫メ御届出申スヘキ事

七 代理人及雇役スル所ノ職工人夫等不適當ト御認定ノ上其差換ヲ御命令相成候共異議無之事  
八 工事ノ一部若クハ數部模様換ヲ要セラレタルトキ其部分ニ限リ任譯ニ照シ本契約ニ定メタル期限及金額ヲ御變更相成候共異議無之事

但此場合ニ於テハ必要ニ應ジ別ニ變更ノ部分ニ對スル御請書差出スヘキ事  
九 工事ノ出來形全體ノ二分ノ一以上ニ及ラザレバ代金ノ内渡ヲ請求致ス間敷事  
但内渡金額ハ出來形ノ三分ノ二以内ニ限ラル事

十 御都合ニ依リ工事着手後本契約ノ解除ヲ命セラレタルトキ又ハ中止ヲ命セラレタル日數竣功期限ノ三分一以上ニ亘ル場合ニ於テハ出來形及現場ニ運搬シタル材料ニ對シ御檢定ノ上相當代價ノ支拂ヲ受クヘキコト

十一 工事中ニ起リタル損害ハ直接ト間接トヲ論セス總テ請負人ニ於テ負擔致スヘキ事  
十二 止ヲ得ザル事情ニ依リ本契約ノ御解除ヲ出願シタル場合ニ於テ出來形工事ニ對スル代金ノ見積ハ御檢定ニ一任シ異議無之事  
但契約保證金ハ無論沒收セララル事

十三 竣功前ハ勿論請負期限内ニ起リタル損害ハ不可抗力ノ變災ニ起因スルモノト雖モ總テ請負人ニ於テ負擔スヘキ事  
十四 不可抗力ノ變災ニ依リ第一ノ期限ヲ遵守スル能ハサル爲メ遅延シタルモノト御認定セララル

ルニ於テハ第三ノ責務ハ免除セラレタキ事  
十五 竣功期限ヲ經過シ工事ノ進捗上不都合ト御認定セララルカ又ハ工事着手後緩慢ニシテ進捗覺束ナシト御認定セララルニ於テハ何時ニテモ本契約ヲ解除シ契約保證金ヲ沒收相成候共異議無之事但此場合ニ於ケル出來形工事ニ對スル代金ノ見積ハ御檢定ニ一任シ異議無之事

十六 第一第五及第七ニ掲ケタル事項ヲ遵守セザルトキハ本契約ヲ解除シ契約保證金ハ沒收セララル事  
十七 本契約第十二ニ基キ請負人ヨリ解除ヲ出願シ又ハ第十五第十六ニ基キ解除ノ御命令ヲ受ケタル場合ニ於テ御市ニ損害ノ生セシトキハ保證金沒收ノ外事情ニ依リ尙其損害ノ賠償ヲ命セラ

ルモ異議無之事  
但請負ノ解除ハ本人又ハ代人ニ御命令書ノ御送達ニ依テ直ニ解除ノ効ヲ生スルモノトス若シ御送達相成候場合ハ市報又ハ揭示場ニ三日間ノ公告ヲ行ハレタルヲ以テ送達ト同一ノ効アルコトヲ豫メ承諾致候事

明治 年 月 日  
住 所 請負人 氏 名 印  
住 所 保證人 氏 名 印

横濱市參事會  
横濱市長宛

(備考)

三十二年六月十三日及三十三年七月十六日改正

○電柱建設ニ關スル道路使用料 三十六年(六月) 告示第七四號  
 市ニ於テ修繕ノ義務ヲ負擔スル道路中ニ建設スル電燈、電話、電信柱ニシテ官署ノ經營ニ屬スルモノ、外ハ一基ニ付一ケ年金貳拾五錢ノ道路使用料ヲ徵收ス

○私有汚水枳浚渫 三十六年(十月) 告示第一〇七號  
 從來道路若クハ民有地内ニ特ニ市ノ許可ヲ受ケ設置シタル私有汚水枳ハ自今其義務者ニ於テ浚渫スヘシ

○工區々域 三十七年(九月) 廳達第一六號  
 南太田町ト南吉田町トノ間郡市境界ヲ起點トシ南吉田町河岸ニ沿ヒ吉田川南岸ヲ蓬萊橋ニ至リ蓬萊町河岸吉田橋ヲ經テ馬車道通右側日本波止場ニ達スル線ヲ境界トシ其以南ヲ一工區トシ以北ヲ二工區トス

○電燈柱其他建設ノ爲道路敷使用 三十八年(十一月) 告示第七九號  
 電燈、電信、電話其他ノ電柱建設及地中線埋設ノ爲道路敷地使用ノ出願ニ對シテハ自今土地ノ狀況及交通上ノ便否ヲ審査シ市參事會限リ之レヲ許可スルモノトス但電柱建設ノ爲道路敷使用ニ關スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

第九類 電柱建設ニ關スル道路使用料 私有汚水枳浚渫  
 工區々域 電燈柱其他建設ノ爲メ道路敷使用

○飲用水管理設ノ爲メ道路敷使用 三十四年(十二月)

自今本市道路敷中ニ於テ飲用水管理設ノ爲メ敷地使用ノ願出アリタルトキハ左記制限以内ニ限リ市參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ許可スルモノトス

- 一 地下使用幅員二尺ヲ超ヘス埋設跡往來ニ妨ケナキモノ但使用許可期間ハ滿五箇年以内

○飲用水管理設ノ爲メ道路敷使用 三十八年(十一月) 告示第八七號

飲用水管理設ニ關スル道路敷使用ノ件ハ使用幅員二尺ヲ超ヘス埋設後交通ニ妨ケナク且其期間滿五ヶ年以内ノモノニ限リ市參事會ニ於テ許可セシニ自今飲用水管ハ勿論其他ノ水管理設ニ關スル道路敷ノ使用モ同一ノ制限ニ依リ市參事會限リ許可スルモノトス

○道路敷中へ輕便軌道布設ニ關スル件 三十八年(十二月) 告示第九九號

土木事業及諸物件運搬ノ爲メ道路敷中へ輕便軌道布設ノ出願ニ對シテハ自今土地ノ狀況及交通上ノ便否ヲ審査シ其使用日數百日以内ノモノニ限リ市參事會ニ於テ之ヲ許可スルモノトス但再度出願ノ爲メ百日以上ニ亘ルトキハ此限リニアラス

第九類 飲用水管理設ノ爲メ道路敷使用 飲用水管布設ノ爲メ道路敷使用 道路敷中へ輕便軌道布設ニ關スル件

第十類

稅務

○特別戶別割市稅賦課細則

二十五年二月  
條例第四號

第一條 特別戶別割ハ本市内官舎ノ居住者ニ對シ其居住官舎及附屬官舎ノ家屋個數ヲ標準トシ賦課ス  
但個數ノ算出ハ本市特別家屋稅ノ家屋個數算法ニ依ル

第二條 特別戶別割ノ稅率ハ家屋個數一個ニ付一ヶ年金五錢以內トス

第三條 新ニ官舎ニ住居シ若クハ移轉スルモノハ直ニ市長ニ届出ヘシ

\* \* \* \* \*

(備考)

三十三年五月條例第二號ヲ以テ第一條但書改正

三十六年十月條例第三號ヲ以テ第二條中金三錢ヲ五錢ト改ム

○特別市税營業稅、家屋稅賦課細則 三十三年(五月) 條例第一號

第一條 特別營業稅ハ物品販賣金錢若クハ物品貸付兩替若クハ運送諸請負旅人宿藝妓屋公ナル周旋仲立仲買製造印刷寫眞ノ諸業ヲ爲スモノニ賦課ス

特別雜種稅ハ料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人遊藝師匠遊藝稼人相撲(行司トモ)俳優間藝妓市場演劇興行遊覽場遊技場人寄席ノ諸業ヲ爲ス者乘馬船車ヲ所有スルモノ又ハ軌道屠畜ニ賦課ス

特別家屋稅ハ建物ヲ所有スル者ニ賦課ス

第二條 前條第一項及第二項ノ特別市税ハ營業稅法ニ依リ國稅ヲ賦課セラルヘキ者ニハ賦課セス

第三條 左ノ諸業ヲ爲ス者ハ物品販賣ト見做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ仕拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
- 二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲スモノ又ハ一定ノ店舗其他ノ營業場ニ於テ自己商品ノ競賣ヲ爲スモノ
- 三 家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵牛乳等其產物ヲ販賣スル者
- 四 魚介類ヲ養殖シ之ヲ販賣スルモノ
- 五 動植物其他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 六 自家收穫ノ農產物並石材土砂粘土其他建築耕作用ノ物品ヲ店舗其他ノ營業場ヲ設ケテ販賣シ又ハ購入品ヲ混和シ販賣スル者
- 七 旅人宿料理店飲食店ニシテ酒類ノ樹賣ヲ爲ス者

漁業採藻業ニシテ採捕物ヲ店舖其他ノ營業場ヲ設ケテ販賣シ又ハ購入品ヲ混和シ販賣スル者  
普通ニ物品ト稱セサルモノ、貸付ヲ爲スモノハ物品貸付業ト見做ス

營利ノ目的ヲ以テ他人ヲ宿泊セシムル者ハ總テ旅人宿業ト見做ス  
左ノ諸業ヲ爲ス者ハ製造業ト見做ス

- 一 瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者器物器械ノ修理ヲ爲ス者穀物ヲ精白搗碎スル者又染物洗濯ヲ爲ス者
- 二 製造業者ニシテ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ又別ニ營業場ヲ設ケ其製造品ノ卸賣營業ヲ爲ス者

- 三 大工鍛冶石工左官木挽植木土方職其他ノ工業ヲ爲ス者
- 四 自家收穫農産物並石材土砂粘土其他建築耕作ノ物品へ購入品ヲ加ヘ製作シ販賣スル者

- 五 自家ノ製造品へ購入品ヲ混和シ販賣スル者
- 六 漁業採藻業ニシテ採捕物へ購入品ヲ加ヘ製作シ販賣スル者

左ノ諸業ヲ爲ス者ハ料理屋又ハ飲食店業ト見做ス

- 一 旅人宿ニシテ料理ノ仕出ヲ爲ス者
- 二 待合茶屋遊船宿芝居茶屋貸座敷引手茶屋ニシテ自家ノ料理飲食物ヲ販賣スル者
- 三 湯屋等ニ於テ休憩所ヲ設ケ飲食物ヲ供スル者

第四條 同一人ニシテ數業ヲ兼タル者ハ各別ニ課税ス但旅人宿料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店  
氷水湯湯營業ノ類ヲ除ク及遊藝師匠遊藝稼人相撲(行司トモ)俳優舞臺藝妓ニシテ二個以上ヲ兼業スルモノハ税率最モ重キ方ノミニ課税ス

藝妓屋業遊藝師匠藝妓遊技場ニシテ等級ニ異動ヲ生シタルトキハ其翌月ヨリ新等級ニ依リ課税ス

第五條 二個ノ標準ニ依リ課税スヘキモノニシテ其一方ノ標準ナキトキハ他ノ一方ノミニ課税スルコトヲ得

第六條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舖其他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ各店舖其他ノ營業場毎ニ區分シテ各別ニ課税標準ヲ計算ス但課税標準ト爲ルヘキモノヲ數種ノ營業ニ供用スルトキハ税率ノ最モ重キ營業ニ其税率相等シキモノハ主ナル營業ノ一方ニ之ヲ計算ス同一人ニシテ數個ノ店舖其他營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舖其他ノ營業場毎ニ課税標準ヲ計算ス

資本金ヲ課税標準トスル營業ニシテ店舖其他ノ營業場數個所アルトキハ其資本金ヲ區分シタルモノハ各別ニ課税シ其區分セサルモノハ合算シテ課税ス此場合ニ於テハ店舖其他ノ營業場ヲ通シテ課税標準ヲ計算ス

第七條 賣上金收入金又ハ請負金報償金ノ計算ハ前年中ノ總額ニ依リ資本金又ハ建物賃賃價格ノ計算ハ前年中ノ平均額ニ依ル前年中半途創業其他半途ニ納税義務ヲ生シタル者又ハ休業若クハ其年ノ一月ヨリ三月マテノ間ニ創業シタルモノノ課税標準ハ其營業月數ニ依リ月割ヲ以テ年額ヲ算定シ其年度内ノ創業其他半途ニ納税義務ヲ生シタルモノ又ハ前年中全ク休業シタルモノノ就業ハ向一ケ年ノ見積額ニ依リ課税標準ヲ計算ス

第八條 建物ノ賃賃價格ハ店舖其他營業用ノ土地家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但建物ノ一部ヲ營業用ニ供スルトキハ其全部ヲ營業用トシテ計算ス  
借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス土地家屋ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ拂フモノヲ以テ建物賃賃價格ヲ計算ス



借家ニアラサル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シ近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其土地家屋ノ時價ヲ格別ニ算出シ土地ハ其百分ノ五家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其建物賃賃價格ヲ計算ス無償ノ借家ニ就テモ亦同シ

第九條 前條第二項ノ場合ニ於テ借地料又ハ借家料ヲ拂フニ物品ヲ以テスルトキハ其物品ノ時價ニ依リ之ヲ計算ス

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其土地ハ前條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其賃賃價格ヲ計算ス

營業者借家内ニ於テ其建物ノ一部ヲ所有スルトキハ其部分ニ限り前條第三項ニ依リ賃賃價格ヲ計算ス其雜作ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十條 資本金額ハ左ノ方法ニ依リ計算ス

一 株式會社株式合資會社合資會社合名會社ニ在リテハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額登記濟出資金額總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金其他積立金ノ性質ヲ有スル資産金トシ其月割平均額

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其價格ハ會社契約ニ定メタル價格ニ依ル會社契約ニ其定メナキトキハ各社員損益共分ノ割合ニ依リ計算ス

二 一個人ニ在リテハ他ヨリ借入タルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均額

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地建物築造物船舶諸器具器械ノ價格ヲ計算ス其價格ハ時價相當見積ニ依ル

第十一條 人力車ハ乘臺ノ橫幅内法曲尺二尺未滿ヲ一人乗トシ其以上ヲ二人乗トス

荷積車ハ荷臺曲尺十四坪未滿ヲ荷積中小車トシ其以上ヲ荷積大七七八八車トス

第十二條 建物個數ヲ算出スル方法左ノ如シ

一 建物ノ種類ヲ區別シ其乘率ヲ定ム

第一類 石造、煉瓦造、土藏造 乘率 二個  
第二類 木造其他ノ建物 乘率 壹個

二 敷地ノ地位ヲ區別シ其乘率ヲ定ム

第一等	乘率	六個
第二等	同	五個八分五厘
第三等	同	五個七分
第四等	同	五個五分五厘
第五等	同	五個四分
第六等	同	五個二分五厘
第七等	同	五個一分
第八等	同	四個九分五厘
第九等	同	四個八分
第十等	同	四個六分五厘
第十一等	同	四個五分
第十二等	同	四個三分五厘

第十類 特別市稅(營業稅、雜種稅、家屋稅)賦課細則

第十三等	同	乘率	四個二分
第十四等	同		四個五厘
第十五等	同		三個九分
第十六等	同		三個七分五厘
第十七等	同		三個六分
第十八等	同		三個四分五厘
第十九等	同		三個三分
第二十等	同		三個一分五厘
第二十一等	同		三個二厘
第二十二等	同		二個八分九厘
第二十三等	同		二個七分六厘
第二十四等	同		二個六分三厘
第二十五等	同		二個五分
第二十六等	同		二個三分七厘
第二十七等	同		二個二分四厘
第二十八等	同		二個一分一厘
第二十九等	同		一個九分八厘
第三十等	同		一個八分五厘
第三十一等	同		一個七分五厘

第三十二等	同		一個六分五厘
第三十三等	同		一個五分五厘
第三十四等	同		一個四分五厘
第三十五等	同		一個三分五厘
第三十六等	同		一個二分五厘
第三十七等	同		一個一分五厘
第三十八等	同		一個五厘
第三十九等	同		九分五厘
第四十等	同		八分五厘
第四十一等	同		八分二厘
第四十二等	同		七分九厘
第四十三等	同		七分六厘
第四十四等	同		七分三厘
第四十五等	同		七分
第四十六等	同		六分六厘
第四十七等	同		六分二厘
第四十八等	同		五分八厘
第四十九等	同		五分四厘
第五十等	同		五分

第十類 特別市稅(營業稅、雜種稅、家屋稅)賦課細則

- 三 前項各等ニ對スル市内各町ニ於ケル建物敷地ノ細別ハ每五ケ年度實際土地ノ狀況ヲ斟酌シ市會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム
  - 四 二階建ハ一坪ヲ七合三階以上ハ一坪ヲ五合トシ其坪數ヲ定メ建物ノ種類ニヨリ其率ヲ乘シ得タル個數ニ敷地等級ノ率ヲ乘シ個數ヲ定ム但個數ノ算出ハ分位ニ止メ厘位以下ハ切捨ルモノトス
  - 五 二階三階以上ハ其階ト階トノ距離五尺以上ヲ指ス中二階ト稱シ其床下土間ニシテ六尺以上ナルモノハ平家坪トシ床上ヲ二階坪トス其床六尺ニ滿タサルモノハ床上ヲ平家坪トシ床下ハ算入セズ床下六尺以上ト雖モ池沼等ニシテ使用スルヲ得サルモノ又ハ路次長屋門等通路ニ止マルモノ及出庇窓井戸小屋ノ類ハ算入セス
- 第十三條 年税ハ之ヲ二分シ前半年度ハ四月一日後年度ハ十月一日現在ニ依リ賦課ス  
月税ハ其月ノ初メノ現在ニ又日税ハ日數ニヨリ賦課ス半途ニ納稅義務ノ起リタル者ハ其月ノ初ヨリ月割ヲ以テ賦課ス  
半途ニ納稅義務ノ消滅シタルモノハ既納ノ税金還付若クハ賦課シタル稅額ヲ更訂セス
- 第十四條 特別營業稅ヲ賦課セサルモノ左ノ如シ
- 一 人力車夫及客船夫又ハ下駄齒入靴類ノ磨直シ若クハ羅宇管替ヲ業トスル者
  - 二 屋外ニ於テ飲食物ヲ販賣スルモノニシテ一ケ年ノ賣上金六拾圓ニ滿タサルモノ
  - 三 傭主ノ家ニ寄宿スル職工又ハ婦女ニシテ自ラ職工ノ業ヲナシ生計ヲ立ツル者
- 特別雜種稅ヲ賦課セサル者左ノ如シ
- 一 屋外ニ於テ飲食店(夏期營業ヲ除ク)ノ業ヲ爲ス者ノ内一ケ年ノ賣上金六拾圓ニ滿タサル者
  - 二 傭主ノ家ニ寄宿スル理髮人
  - 三 遊藝師匠遊藝稼人ニシテ不具癡疾ノ者
  - 四 場所柵圍ヲ設ケス興行又ハ遊覽所ニ屬スル業ヲ爲ス者若クハ人寄席ニ於テ爲ス興行
  - 五 軌道所屬ノ車耕作ノミニ用フル車非常專用ノ車製造業ノ如キ一場内ニ於テ用フル車倉庫船水田ノ耕作ノミニ用フル船水災ノ爲メ陸地ニ設置ノ船橋梁ニ換ヒ渡場ノミニ用フル船航海中木船ニ掲ケ置ク小艇ノ類官公立學校病院其他官公署又ハ公共組合ニ屬シ直接公用ニ供スル船車社寺教會祭典法用若クハ慈善ノ用ニ供スル船車

- 特別家屋稅ヲ賦課セサルモノ左ノ如シ
- 一 借家ニアラサル堂宇教會所又ハ祭典法用ニ供スル建物
  - 二 假小屋ノ類
  - 三 農業用ニ供スル肥料小屋ノ類

第十五條 特別市税ノ徵收期日ハ市會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 特別營業稅又ハ特別雜種稅ノ課稅標準ハ毎年一月二十日限り又一月ヨリ三月マテノ間ニ創業シタルモノハ四月五日限り業名及營業細目ヲ詳記シ共ニ届出ヘシ但船車又ハ月稅ノ賦課ヲ受クル者ハ此限リニアラス

創業就業其他半途ニ納稅義務ヲ生シタルトキ藝妓屋人寄席ニシテ課稅標準ニ異動ヲ生シタルトキ軌道ヲ布設シ又ハ其延長ニ異動ヲ生シタルトキ廢業休業營業細目ノ増減店舗其他ノ營業場ノ移轉増減若クハ住所氏名ノ變更代替等ヲナシタルトキ乘馬ヲ新ニ使用シ若クハ使用ヲ廢止シ又ハ他府縣郡ヨリ轉入其他半途ニ納稅義務ヲ生シタルトキハ五日以内ニ届出ヘシ屠畜ノ頭數ハ每一ケ分月ヲ翌月五

日限リ届出ツヘシ

第十七條 新タニ船舶ヲ造リ又ハ他府縣郡ヨリ轉入其他半途ニ納稅義務ヲ生シタルトキハ船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ハ其證書又ハ鑑札及之ト同種類ノ船舶ニシテ證書若クハ鑑札ヲ受有セサル船舶ハ積量ヲ證明シ得ヘキ書類ノ寫ヲ添ヘ甲種票札其他ノ船舶ハ乙種票札ヲ調製シ五日以内ニ届出檢印ヲ受ケ甲種票札ヲ有スル者ハ之ヲ本船ニ備置乙種票札ヲ有スル者ハ其船ニ釘付スヘシ

第十八條 船舶ヲ賣買讓與シタルトキハ五日以内ニ當事者連署シ届出檢印ヲ受クヘシ  
船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタルトキハ五日以内ニ届出檢印ノ引換ヲ受クヘシ  
解船破船又ハ船舶ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ其旨届出檢印ノ消棄ヲ受クヘシ但票札ノ亡失等ニ係ルトキハ其旨届書ニ付記スヘシ

第十九條 馬車荷積馬車荷積車人力車牛車自轉車ヲ新調シ及他府縣郡ヨリ轉入其他半途ニ納稅義務ヲ生シタルトキハ五日以内ニ届出檢印ヲ受クヘシ但自轉車ニ在リテハ所定ノ票札ニ檢印ヲ受ケ車体ノ見易キ處ニ結付クヘシ

車類ヲ變更又ハ修繕シ馬車馬ノ頭數ヲ増減シ税金ニ差違ヲ生シタルトキ若クハ檢印ヲ毀損亡失シタルトキハ前項ニ依リ届出檢印ヲ受クヘシ

第二十條 課稅物件ヲ賣買讓與解撤廢毀亡失シ又ハ其所有者ノ住所氏名ヲ變更シ若クハ代替等ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ届出ヘシ其賣買讓與ニ係ルトキハ届書ニ當事者連署シ解撤廢毀又ハ他府縣郡ヘ轉出スルトキハ檢印ノ消棄ヲ受クヘシ

第二十一條 遊藝師匠遊藝稼人相撲(行司トモ)俳優間藝妓ノ業ヲ爲サントスル者ハ所定ノ票札ヲ調製シ檢印ヲ受クヘシ但休業セントスルトキハ其旨届出票札ヲ市役所ニ預置キ就業セントスルトキハ

其旨届出其票札ヲ受クヘシ

第二十二條 演劇興行遊覽場ノ業ヲ爲サントスル者ハ其家屋又ハ場所周圍内ノ坪數及豫定ノ營業日數ヲ記シ圖面ヲ添ヘ開業前日マテニ届出ヘシ其届出後日數ヲ伸縮シ又ハ坪數ニ増減ヲ生シタルトキ亦同シ

第二十三條 本條例ニ依リ受有スル票札ヲ毀損亡失シ又ハ住所氏名若クハ船名定繫場ノ變更等票札記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ票札ヲ調製シ更ニ檢印ヲ受ケ其書換又ハ廢業ニ係ルモノハ舊檢印ノ消棄ヲ受クヘシ

第二十四條 家屋ヲ新築シタル者ハ落成ノトキ第十二條ニ依リ其種類地位及坪數ヲ記シ縮圖ヲ添ヘ五日以内ニ届出ヘシ其敷地他人ノ所有ニ係ルトキハ地主ノ連署ヲ要ス但官公有地ナルトキハ此限リニアラス

第二十五條 家屋ノ種類ヲ變更シ又ハ坪數ヲ増減シ若クハ燒失廢毀賣買讓與シタルトキハ五日以内ニ届出ヘシ其賣買讓與ニ係ルモノハ届書ニ當事者連署シ若クハ賣買讓與登記濟證ヲ示スヲ要ス

第二十六條 船車等ノ亡失ニ罹リタル後其所在ヲ發見シタル者ハ直ニ届出ヘシ

第二十七條 製造場店舗其他營業場ヲ有スルモノ行商出稼ヲ爲ス者若クハ建物車乘馬ヲ所有スルモノニシテ市内ニ居住セサルモノハ納稅ニ關スル事件ヲ處辨セシムル爲メ市内居住者ヲ代理人ニ定メ連署ヲ以テ届出ヘシ

第二十八條 課稅標準届出ノ義務アル營業者ハ貨物ノ仕入賣上受入貸付廻送及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ但收入金資本金請負金ヲ課稅標準トスル者ニアリテハ第七條及第十條ノ計算ニ差支ナキ帳簿ヲ備フヘシ

第二十九條 市役所ハ吏員ヲ派シ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ店舗營業場若クハ家宅其他ノ構造物ニ就キ検査又ハ尋問スルコトアルヘシ  
前項検査ノ場合ニ於テ課税標準トナルヘキ金額等正確ナラスト認ムルトキハ再調セシムルコトアルヘシ若シ拒ンテ再調ヲ爲サス尙正確ナラスト認ムルトキハ認定ヲ以テ課税標準等ヲ定ムルコトアルヘシ

第三十條 第十七條第十九條但書及第二十一條ノ票札雛形ハ市參事會之ヲ定ム  
第三十一條 本條例ニ違フ者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十二條 本條例ハ明治三十三年度ヨリ施行ス但第十二條第三號ノ建物敷地細別ハ明治三十三年度ニ限リ土地臺帳記載ノ市街宅地ノ等位ニ據リ市會ノ決議ヲ以テ同條第二號ノ各等ニ割當シ土地臺帳ニ其記載ナキ官有地及山手町山下町其他ノ土地又ハ土地臺帳ニ記載アルモ市街宅地ニアラサル土地ニ就テハ隣地若クハ隣町ニ比準シ同條第二號ノ各等ニ割當スルモノトス  
第十二條ノ第三號ニヨリ市會ノ決議シタル明治三十四年ニ於ケル建物敷地ノ細別ハ同年度限り廢止シ明治三十五年度ヨリハ更ニ市會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム  
第三十三條 船車所有者藝妓幫間遊藝師匠遊藝稼人俳優相撲ヲ業トスル者ニシテ本條例施行前ニ下附シタル鑑札又ハ票札ヲ受有スル者ハ本條例ニ依リ更ニ檢印ヲ受クルヲ要セス

(備 考)

三十四年八月條例第五號ヲ以テ細則第一條第二項中屠畜ノ二字ヲ加ヘ第四條第二項ヲ改メ第十二條第二號ノ等位及乘率ヲ改正

シ同條第四號ニ但書ヲ加ヘ第十四條第三項ニ第三號ヲ追加シ第十六條第一項ニ但書ヲ加ヘ同條第二項ヲ改メ同項ノ次一項ヲ追加シ第二十一條但書ヲ改正シ第二十二條中遊藝場人寄席ノ六字ヲ削リ附則第三十二條末項ヲ追加ス  
三十九年十月條例第五號ヲ以テ第一條中ハ公ナル周旋仲立仲買及第七條中ハ報償金ヲ追加シ第十二條第二號ノ等級及乘率ヲ改正ス

特別營業稅、特別雜種稅、特別家屋稅、課稅標準及稅率

三十三年五月  
告示號外

特別營業稅

物品販賣業 (賣上金高)

物品貸付業 (資本金額)

物品貸付業 (資本金額)

運送業資本金額

勞力請負業請負金額

旅人宿業建物貸賃價格

藝妓屋業

第一等 第一等藝妓ヲ同  
居セシムルモノ

第二等 第二等藝妓ヲ同  
居セシムルモノ

公ナル周旋業

仲立業

製造業

印刷業

寫眞業

特別雜種稅

料理屋待合茶屋

遊船宿芝居茶屋

飲食店ノ類

租水水麥湯ノ類ニシテ夏期營業ニ係ルモノハ月稅二圓四十二錢以內其行商ヲ爲スモノハ月稅金

年

稅

〔卸賣ハ萬分ノ十九以內  
小賣ハ萬分ノ六十三以內  
萬分ノ百四十六以內  
千分ノ八以內  
萬分ノ百四十六以內〕

同

同

同

同

同

同居藝妓  
一人ニ付

月稅

金八十三錢以內

同居藝妓  
一人ニ付

月稅

金四十一錢以內

報酬金額

年稅

千分ノ三十六以內

年

稅

〔萬分ノ六十一以內  
萬分ノ百四十六以內〕

年

稅

千分ノ五十五以內

第十類 特別營業稅、特別雜種稅、特別家屋稅、課稅標準及稅率

湯屋	一圓二十八錢以內トス	年稅	金十六錢以內
遊藝師匠	第一等 山手町、山下町、本町外十三ヶ町及遊藝地ニ住居スルモノ	月稅	金二圓四十二錢以內
	第二等 前項ノ外各地ニ住居スルモノ	同	金一圓二十一錢以內
遊藝稼人	相撲 (行司トモ)	同	金一圓二十一錢以內
俳優	同	同	金二圓四十二錢以內
幫間	同	同	金六圓八十八錢以內
藝妓	第一等	月稅	金八圓二十五錢以內
	第二等 踊舞等ヲナス雜妓ヲ云フ	同	金四圓十三錢以內
市場	第一等 港町 魚鳥、獸、蔬菜	月稅	金八十八圓以內
	第二等 前項ノ外市場	同	金二圓四十二錢以內
糶糶市	同	同	金七圓二十三錢以內
演劇	劇場一坪ニ付	日稅	金七錢以內
興行	場所一坪ニ付	同	金五錢以內
遊覽所	場所一坪ニ付	同	金五錢以內

遊技場

第一等	玉突、大弓、楊弓、室内射的	月稅	金四圓八十一錢以內
第二等	前項ノ外各遊技場	同	金三圓四十一錢以內
人寄席	客席一坪ニ付	同	金拾四錢以內
車	第一等 馬車二匹立以上	年稅	金拾九圓二拾五錢以內
	第二等 同一匹立	同	金拾二圓八十四錢以內
	第三等 荷積牛車荷積馬車	同	金八圓〇三錢以內
	第四等 荷積大七八八車	同	金六圓〇二錢以內
	第五等 人力車二人乘	同	金四圓八拾壹錢以內
	第六等 人力車一人乘	同	金四圓〇貳錢以內
	第七等 荷積中小車大六以下諸車	同	金貳圓貳拾六錢以內
自轉車	一臺ニ付	同	金七圓以內
軌道	第一等 馬車鐵道	年稅	金拾四錢以內
	第二等 電氣鐵道	同	金五錢以內
	第三等 人車鐵道	同	金貳錢以內
船	第一等 前項ノ外營業用ノ軌道	年稅	金四圓貳拾壹錢以內
	第二等 解漁船川船及五十石未満海船		
	第三等 長(自軸梁至艙梁)八間以上		

第十類 特別營業稅、特別雜種稅、特別家屋稅 課稅標準及稅率

二九二

第二等	同	七間以上	同	金參圓六拾錢以內
第三等	同	六間以上	同	金參圓〇參錢以內
第四等	同	五間以上	同	金貳圓四拾貳錢以內
第五等	同	四間以上	同	金壹圓八拾貳錢以內
第六等	同	三間以上	同	金壹圓貳拾五錢以內
第七等	同	三間以下	同	金九拾五錢以內
日本形船	積石五十石以上	百石以下	同	金八圓〇參錢以內
西洋形船	第一等	蒸氣船百噸三付	年稅	金六拾圓貳拾參錢以內
	第二等	風帆船同	同	金四拾圓拾五錢以內
	第三等	機械船 石油發動機船類	同	金參圓〇參錢以內
乘馬	同		同	金四圓八拾壹錢以內
屠畜	牛	一頭二付	年稅	金八拾錢以內
	犢牛馬	同	同	金四拾錢以內
	羊 豚	同	同	金貳拾錢以內
特別家屋稅	建物個數一個ニ付	經常費 臨時費	拾錢以內 五錢以內	

明治三十六年度ヨリ同四十二年度ニ至ル七ヶ年間

(備考)

三十四年八月告示號外ヲ以テ特別雜種稅ノ内へ屠畜ニ關スル項ヲ追加ス  
 三十六年十月告示第一一一號ヲ以テ特別家屋稅々率ヲ變更ス  
 三十九年十月告示第九五號ヲ以テ特別營業稅ノ内へ公ナル周旋仲立仲買業ヲ追加ス



○建物敷地ノ地位等級細別

四十年(三月) 告示第二八號

特別市稅營業稅、雜種稅、家屋稅、賦課細則第十二條第三號ニ依リ明治四十年度ヨリ施行スヘキ建物敷地ノ細別ヲ別冊ノ通り定ム

建物敷地ノ地位等級査定方法

- 第一 街路ヨリ奥行七間マテヲ表地位ノ區域トシ以上ヲ裏地位ノ區域トス
- 第二 街路ニ面セル表地域内ノ建物ニシテ裏地域ニ跨ルモノハ表地位ノ等級ニ依ル
- 第三 表地域内ノ建物ト雖モ街路ニ面セル他ノ建物アル時ハ裏地位ノ等級ニ依ル
- 第四 表地域内ハ板塀又ハ柵等ヲ設ケテ庭園トナシ或ハ商品ノ置場トシ裏地域内ニ建物アル時ハ表地位ニ依ルモノト見做シ表地位ノ等級ニ依ル
- 第五 甲街路ノ表地域ヨリ乙街路ノ表地域ニ跨ルモノハ上位ノ地位等級ニ依ル

(別冊省略)

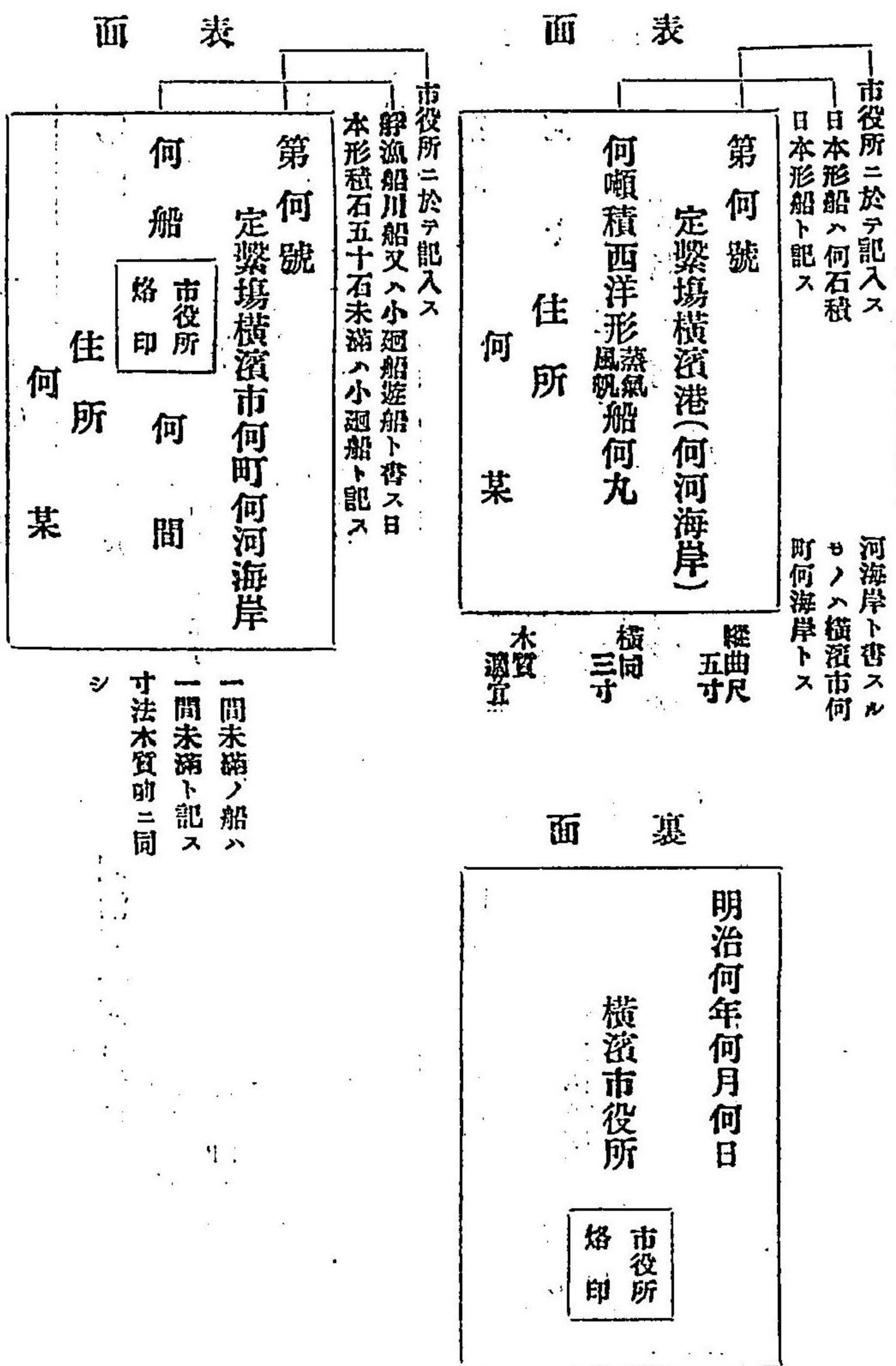
○市稅營業稅附加課稅標準額

三十八年(二月) 告示第二號

本市内及本市外ニ店舗又ハ營業場ヲ有シ其資本ヲ區分セサル爲メ營業稅法第十五條第二項ニ據リ營業稅ヲ合算課稅セラル、モノニシテ他府縣ニ涉ルモノハ府縣制第百八條ニ據リ歩合ヲ定メラレタルモノト同一ノ標準ヲ以テ其本稅ヲ分別シ本縣内郡市ニ涉ルモノハ前年中各店舗營業場ノ收支金額ニ依リ歩合ヲ以テ資本金ニ對スル稅額ヲ分別シ之ニ建物賃賃價格及從業者ノ稅額ヲ併セテ市(區)稅附加標準額トナシ明治三十七年分ヨリ營業稅割ヲ賦課ス

○特別市稅賦課細則ニ依ル票札雛形  
第十七條票札雛形

三十三年(七月)  
告示第一二二號



第十類 特別市稅賦課細則ニ依ル票札雛形

第十九條 但書票札雛形

面 表

第何號

自轉車

住所 何某

曲尺  
縱一寸五分  
同橫一寸二分  
木質適宜

裏 面

明治何年何月何日

市役所  
烙印

第二十一條 票札雛形

面 表

第何號

何々住所

藝名 何某

生年月

市役所ニ於テ記入ス

曲尺  
縱二寸五分  
同橫一寸五分  
紙質八分  
寸分  
紙質八分  
寸分  
紙質八分  
寸分  
紙質八分  
寸分

裏 面

明治何年何月何日

横濱市役所

市役所  
烙印

○市稅徵收規程

三十三年(五月) 告示號外改正

第一條 特別營業稅特別雜種稅及特別家屋稅ノ内年稅ハ其前半年度分ハ四月三十日後半年度分ハ十月三十一日限リ徵收ス

前項二期ノ外月稅日稅及半途ニ納稅義務ノ生シタル年稅ノ徵收期日ハ市參事會之ヲ指定シ各其徵稅令書ニ記載ス

第二條 廢業休業轉業其ノ他課稅物件ヲ異動シタル者ハ前條各項ノ納期ニ關セス即時ニ稅金ヲ徵收ス

第三條 特別戶別割ハ其ノ年額ヲ二分シ四月一日及十月一日ノ現在數ニ賦課シ前半年度分ハ四月三十日後半年度分ハ十月三十一日限リ徵收ス

第四條 營業稅ノ附加市稅ハ本稅ト同時ニ徵收ス

所得稅ノ附加市稅ハ年額ヲ二分シ前半年度分ハ九月三十日後半年度分ハ翌年三月三十一日限徵收ス

但隨時納稅義務ノ生シタルモノ、徵收期日ハ市參事會之ヲ定ム

地租ノ附加市稅ハ其年度ノ課率ヲ二分シ四月一日十月一日ノ現地租額ニ依リ賦課シ前半年度分ハ四月三十日限後半年度分ハ十月三十一日限徵收ス

第五條 市參事會ハ各市稅ノ納期ヲ五十日以内延期スルコトヲ得

第六條 本規定ノ施行期日ハ特別稅賦課細則ノ施行期日ニ伴フ現行市稅賦課徵收方法ハ本規程施行ノ前日限リ廢止ス

(備考)

三十八年六月告示第四二號ヲ以テ第四條ヲ改正ス

○市税賦課物件及營業者調査員心得

三十六年(五月) 昭達第九號

第一條 調査ハ市税ノ賦課物件及營業者ノ届洩等ヲ確知シ遁脱ナカラシムルヲ以テ目的トス

第二條 調査員ハ市税賦課物件ノ所有者又ハ管理者及營業者ニ就キ調査員ナルコトヲ告ケ賦課洩又ハ營業場ノ移轉等ヲ調査スヘシ

第三條 調査員ノ市民ニ接スルニハ最モ懇篤丁寧ヲ主トシ苟モ粗暴ニ涉ル言行アルヘカラス

第四條 調査員ハ其求メニ依リ調査員タル證票ヲ示スヘシ

第五條 調査員ハ可成洋服ヲ着スヘシ若シ洋服ニアラサルトキハ必ス着袴スルコトヲ要ス

第六條 證票ヲ紛失又ハ毀損セシトキハ其事由ヲ直ニ届出ツヘシ

第七條 調査上便宜ノ爲メ區域ヲ二區ニ分ツ即チ左ノ如シ

本町	海岸通	元濱町	北仲通	南仲通	辨天通
境町	太田町	相生町	住吉町	常盤町	尾上町
港町	萬代町	不老町	翁町	壽茶町	松影町
吉濱町	姿見町	羽衣町	伊勢佐木町	元茶町	中村町
根岸町	石川町	石川仲町	山元町	本牧町	上野町
山下町	山手町	千代崎町	諏訪町		北方町
真砂町	扇町				
吉田町	第二區	松ヶ枝町	久方町	駿河町	浪花町
	福富町				

第十類 市税賦課物件及營業者調査員心得

柳町 長者町 足曳町 山吹町 末吉町 雲井町  
 富士見町 梅ヶ枝町 若葉町 長島町 山田町 若竹町  
 賑町 吉岡町 千歳町 三吉町 永樂町 眞金町  
 老松町 宮川町 野毛町 福島町 宮崎町 花咲町  
 月岡町 三春町 英町 霞町 清水町 黄金町  
 初音町 日ノ出町 南太田町 南吉田町 久保町 伊勢町  
 戸部町 櫻木町 緑町 内田町 長住町 橋町  
 入船町 高島町 裏高島町 平沼町 材木町 仲町  
 西戸部町 表高島町 尾張屋町 西平沼町 岡野町 淺間町  
 青木町 神奈川町

第八條 受持區域外ニ係ル第一條ノ届洩又ハ遁脱等ヲ覺知シタルトキハ直ニ其受持吏員ニ通報シ互ニ

整理ヲ期スヘシ

第九條 雨天若クハ降雪等ニ依リ巡視シ難キトキハ内部ノ事務ニ服スヘシ

第十條 自己受持區域ノ調査事項ハ別紙様式ニ依リ前日分ヲ毎朝課長ニ報告スヘシ

(別紙様式)

課長 調査員	課長 調査員	課長 調査員	課員印	巡視町名	報告事項
			報告 月日		
日 月	日 月	日 月			

○納税ニ關スル選舉資格要件調査手續

三十七年(三月) 閣議第三號

第一條 議員選舉資格ノ要件タル納税額ノ調査ヲ簡易ナラシムル爲メ稅務課ハ直接國稅名寄帳ヲ調製

シ本手續ニ依リ常ニ之ヲ整理スヘシ

第二條 名寄帳ハ別紙様式ニ據リ直接國稅ニ關スル各事項ヲ記載スヘシ

第三條 同一人ニシテ二個所以上ニ於テ納税スルモノアルトキハ其稅額ヲ合記スヘシ

第四條 新ニ名寄帳ニ登載スヘキ納税人アリタルトキ又ハ名寄帳ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタル

トキハ直ニ之ヲ加除スヘシ

第五條 (出張所廢止ニ付削除)

第六條 納税ニ關スル選舉資格要件ノ調査ヲ要スルトキハ其都度細目ヲ定メ議事課ハ之ヲ稅務課ニ通

知スヘシ

前項ノ調査期限ハ關係各課ノ合議ニ依リ決裁ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

附 則

第七條 (出張所廢止ニ付削除)

様 式

第十類 納税ニ關スル選舉資格要件調査手續



○諸税派出收入取扱ニ關スル規程

三十七年(五月) 告示第四七號

本市ニ於テ徵收スヘキ國稅、本縣雜收金及市區稅徵收ノ爲メ左記日割ノ通徵稅吏員派出シ收入事務ヲ取扱ハシム但隨時收入ノ徵收ニ付テハ特ニ派出セス

派出所位置及日割

- 青木町派出所 本縣雜收金納期日五日前ヨリ五日間(毎月六日ヨリ十日迄)
- 四十四番地 各稅納期日十日前ヨリ十日間(各納期日迄)
- 根岸町派出所 各稅納期日十日前ヨリ五日間(各納期日六日前迄)
- 三千六百番地 各稅納期日五日前ヨリ五日間(各納期日迄)
- 本牧町派出所 各稅納期日五日前ヨリ五日間(各納期日迄)
- 百四十六番地 \* \* \* \*

(備考)

三十八年十二月告示第九八號ヲ以テ青木町派出所ヲ四十四番地ニ移轉ス

三十九年七月告示第五四號ヲ以テ青木町派出所收入取扱期日申改正

同年同月告示第六四號ヲ以テ山元町派出所ヲ根岸町千五百二十七番地ニ移轉ス

同年九月告示第八九號ヲ以テ根岸町派出所ヲ同町三千六百番地ニ移轉ス

○營業稅ヲ分別納付セサル者ノ營業場其他届出方

三十八年(七月) 告示第五〇號

本市及本市外ニ店舗其他ノ營業場ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ營業稅ヲ各營業場毎ニ分別シテ納付セサル者ハ左記事項ヲ當役所ニ届出ツヘシ

- 一本店及支店其他各營業場名法人ニアラサルモノハ營業主ノ氏名
- 一各營業場所在地及營業名

第十類 諸税派出收入取扱ニ關スル規程 營業稅ヲ分別納付セサル者ノ營業場其他届出方三〇九



一營業場ヲ新設又ハ廢止シタルトキハ其年月日

### 第十一類

#### 財 務

##### ○基本財産蓄積條例

三十五年(六月) 條例第一號

第一條 本市ハ本條例ノ規定ニ依リ基本財産トシテ現金ヲ蓄積ス

第二條 市有不動産賣却代金ハ基本財産ニ編入ス但豫メ所有權移付ノ定リタルモノニシテ手續上一時

市ノ所有ト爲シタルモノニ就テハ此限ニアラス

第三條 市制第八十一條二項ニ掲クルモノ、外左ノ金額ハ毎年度基本財産ニ編入ス

一 基本財産ヨリ生スル收入

二 不用品拂代

三 不可豫知收入

四 歳入出精算殘金ノ百分ノ八但臨時費ニ充ツヘキ收入ニシテ翌年度ニ繰越使用スルモノヲ除ク

第四條 濟貧恤窮ヲ目的トシタル基本財産ハ五萬圓ニ達スル迄前條第四號編入金ノ半額ヲ以テ之ニ充

ツ

第五條 特ニ經濟ヲ分チ別ニ豫算ヲ設クルモノニ就テハ第二條第三條ヲ適用セス

濟貧恤窮ヲ目的トシタル基本財産ヨリ生スル收益ニ就テモ亦同シ

第六條 蓄積シタル基本財産ハ繰リ入レ若クハ繰替ヲ爲スヲ得ス

第七條 公債ヲ起シ又ハ公債ノ現存スル場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ以テ其償還ヲ了スル迄ノ間第三條

ノ蓄積ヲ停止スルコトヲ得

第八條 基本財産トシテ蓄積スヘキモノハ總テ豫算ニ編入ス

附 則

第九條 本條例ハ明治三十五年度ヨリ施行ス

○會計規程

二十四年(四月) 規則第五號

第一條 此規則ニ於テ歳入歳出ト稱スルハ毎年度豫算ニ編入セル收入支出ヲ云ヒ雜部トハ豫算ニ掲ケサル收入支出ヲ云フ

第二條 歳入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ年度但議會ニ於テ特ニ年度ヲ定メタルトキハ此限ニテラス

二 臨時ノ收入ニシテ賦課令狀及納額告知書ヲ發スルモノハ發シタル日ノ年度

三 臨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲナシタル日ノ年度

第三條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一 諸拂戻ハ其拂戻ヲ命令シタル日ノ年度

二 俸給手數料旅費報酬實費辨償及手當附料ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ屬スル年度

三 廳中雜費土木建築費其他物件購入代價ノ類ハ契約ヲナシタル日ノ年度但土木建築ノ如キ事業ノ數年ニ涉ルモノハ契約ニ由リ定マリタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

四 後年度ノ事業ヲ豫メ契約シタルトキハ其事業ノ屬スル年度

五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサルモノハ市參事會ニ於テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第四條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度五月三十一日限リトス

第五條 收入役ハ市參事會ノ承認ヲ經自己ノ責任ヲ以テ書記其他ノ吏員ニ收支ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ收入役ハ身元保證金ヲ徵スルコトヲ得

第六條 收入役ハ確實ナル銀行ニ現金ノ取扱ヲ依託シ擔保トシテ信用アル有價證券ヲ銀行ヨリ差出サ

シムヘシ但銀行ノ撰擇擔保ノ總額及現金取扱ニ關スル契約ハ豫メ市參事會ノ承認ヲ受クヘシ  
第七條 前條ニ依リ現金取扱方契約ノ結果銀行ヨリ利子ヲ徵スルトキハ其利子ハ市ノ收入トス但現金  
取扱ノ爲メ銀行出張所ヲ置カシメタルトキハ市費ヲ以テ手當ヲ支給ス

第八條 收入役又ハ其代理者ハ臨時止ムヲ得サル場合ニ限り現金ノ取扱ヲナスコトヲ得

第九條 現金取扱所ナキ所ノ收入役代理者ハ現金取扱ヲナスモノトス

第十條 收入役又ハ其代理者ニ於テ領收シタル現金ハ翌日現金取扱所ニ送付スヘシ但遠隔ノ地ニシテ  
本文ノ手續ニ依リ難キ場合ハ市參事會ニ於テ便宜方法ヲ設クヘシ

第十一條 市稅ハ各納人ニ對シ市參事會ニ於テ賦課令狀ヲ發シ其他ノ收入ハ各納人ニ對シ納額告知書  
ヲ發スヘシ但納額告知書ヲ發シ難キモノハ市參事會ニ於テ便宜ノ取扱法ヲ設クル事ヲ得

第十二條 納期ヲ豫定セル收入ハ納期五日前ニ臨時ノ收入ハ期日ヲ定メ其都度賦課令狀又ハ納額告知  
書ヲ發スヘシ

第十三條 各年度ニ屬スル經費ノ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度五月二十日限リトス

第十四條 收入役ニ於テ支拂命令ヲ受ケタルトキハ仕拂切符ヲ製シテ受取人ニ交付シ現金取扱所ニ就  
キ現金ヲ受取ラシムヘシ

第十五條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度五月三十一日迄ニ受取人ナキトキハ其命令ヲ取消整理スヘ  
シ

第十六條 雜部金ハ市參事會又ハ市長ノ命令ニ依リ收入役ニ於テ收支ヲ爲スモノトス但法律命令アル  
モノハ其規定ニ依ル

雜部金ノ中基本財産及普通財産ニ屬スル現金ハ市參事會ニ於テ確實ナル銀行ニ預入利殖ヲ圖ルヘシ

但其利子ハ元金ニ加フルト經費ニ充ツルトヲ問ハス歲入出豫算ニ編入シ整理スルヲ要ス

第十七條 市ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ左ノ方法ニ依リ施行ス

工事ノ請負又ハ物品ノ供給ヲ競争入札ニ付セシ場合其入札ノ金額豫定ノ價額ヨリ超過セシトキ又ハ  
入札者ナキトキハ三名以上ノ指名入札若クハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得但工事ニ關スル古材料ノ賣  
却モ亦本文ノ手續ニ依ルコトヲ得

工事又ハ物品ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付セス隨意ノ約束ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ハ左ノ如シ

一 一人又ハ會社ノ專有物品及産地ヲ特定セル工事材料又ハ特別ノ技術ヲ要スルニ非ラサレハ製  
造シ難キ物品ノ買入又ハ借入

二 見積價格五百圓ヲ超ヘサル工事又ハ物品ノ賣買及借入

三 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲナスニ當リ其位置又ハ構造ニ限アル場合

四 工事契約後ニ起リタル千圓未満ノ附帶工事ニシテ同一契約者ト契約ヲ要スル場合

五 瓦斯局製造ニ係ル副産物及瓦斯需用者へ販賣スル諸機械器具類ノ賣却

第十八條 契約ニ依リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既濟部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ支拂ヲ爲スハ既納又  
ハ既濟部分ニ對スル代價ノ三分ノ二ヲ超ユヘカラス

第十九條 工事ノ請負又ハ物品供給ノ競争者トナストキ若クハ其競争ノ結果ニヨリ契約ヲ結フトキハ  
現金又ハ信用アル有價證券ヲ保證トシテ納付セシムヘシ其納ムヘキ保證金額ハ市參事會之ヲ定ム

第二十條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキ又ハ其契約ヲ履行セサルトキハ其保證金ハ市ノ所  
得ト爲スノ契約ヲ爲スヘシ

第二十一條 競争ハ總テ入札ノ方法ニ依リ之ヲ行フ但見積價格千圓ヲ超ヘサルモノハ三名以上ノ指名

第十一類 會計規程

三一五

入札ニ附スルコトヲ得

第二十二條 市内消防器械置場及楮子營繕工事浚渫船修繕工事瀝氣機瀝罐及附屬器械類製作修繕工事請負汚物掃除ニ關スル請負結氷供給請負賄方請負并ニ特別高價藥購入ニ限り時宜ニ依リ三名以上ノ指名入札又ハ隨意ノ約束ニ依ルコトヲ得

第二十三條 競争ニ加フヘキ者ハ一年以上其事業ニ従事スルモノニ限ルヘシ但土木工事ニ要スル材料ノ供給ニ限り滿ニケ年以上引續キ該物品ノ販賣ニ従事スルモノ、競争入札ニ付スルコトヲ得

第二十四條 落札トナルヘキ價格ニシテ不相當ナルトキハ再度ノ入札ニ付スヘシ

第二十五條 落札トナルヘキ同額ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

第二十六條 記簿計算ハ總テ復記式ニ依ル

第二十七條 收入役ハ銀行ノ預リ金證ヲ翌日市長ニ提出シ捺印ヲ受クヘシ

第二十八條 收入役ハ歳入歳出内譯簿ノ結果ニ依リ其種類ヲ區別シ收支計算表ヲ毎月末日調製シ翌月初メニ市參事會ニ提出スヘシ

第二十九條 收入役ハ雜部金内譯簿ノ結果ニ依リ毎月末日ニ收支計算表ヲ調製シ翌月調製シ翌月初メニ差出スヘシ

第三十條 現金取扱所ハ毎日收支報告書ヲ調製シ收入役又ハ其代理者ヘ差出ス可シ

第三十一條 本則ニ規定ナキ細則ハ市參事會之ヲ定ム

(備考)

三十二年十一月告示第一四四號ヲ以テ規程第十七條第三項第二號及第二十一條ヲ改メ第二十三條但書ヲ加フ

三十三年六月告示第一〇四號ヲ以テ第十七條改正

三十四年二月告示第六號ヲ以テ第十七條第二項改正

同年八月告示第一八號ヲ以テ第二十二條改正

同年十二月告示第一八二號ヲ以テ第四條中六月二十五日ヲ五月三十一日ニ改メ第六條及第七條ヲ改正シ第十三條中六月十五日トアルヲ五月二十日ニ第十五條中六月二十五日トアルヲ五月三十一日ニ改メ第十六條第二項ヲ追加ス

同三十六年六月告示第七號ヲ以テ二十二條中賄方請負ノ四字追加

同年九月告示第九四號ヲ以テ第十七條第三項第五號ヲ追加シ第二十二條中浚渫船修繕工事ノ七字ヲ加フ

同年十一月告示第一四一號ヲ以テ第二十二條中汽機汽罐以下十六字ヲ加フ

同三十九年二月告示第九號ヲ以テ第十七條第二項ノ一號中「及産地ヲ特定セル工事材料」ノ十三字ヲ加フ

同年三月告示第一九號ヲ以テ第十七條第三項ノ二號「百圓」トアルヲ「五百圓」ニ全四號中「二百圓」トアルヲ「千圓」ニ第二十一條中「貳百圓」ヲ「千圓」ニ改メ

○會計簿記規程 二十六年二月十日

第一條 市役所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ金錢ノ出納計算ヲ整理スヘシ

日記簿 (甲第一様式) 原簿 (甲第二様式)

現金出納簿 (甲第三様式) 歳入内譯簿 (甲第四様式)

歳出内譯簿 (甲第五様式) 雑部金收入整理簿 (甲第六様式)

雑部金支出整理簿 (甲第七様式) 金錢有高口別簿 (甲第八様式)

第二條 前條ノ帳簿ニ依リ左ノ計算表ヲ調製スヘシ

原簿 日記簿 歳入内譯簿計算表

歳出内譯簿計算表 雑部金收支整理簿計算表

金錢有高口別表 收支對照統計表

第三條 水道事務所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ金錢ノ出納ヲ整理スヘシ

日記簿 原簿 歳入内譯簿

現金出納簿 歳入金有高口別簿

歳出内譯簿 金錢有高口別簿

第四條 前條ノ帳簿ニ依リ左ノ計算表ヲ調製スヘシ

原簿 日記簿 歳出内譯簿計算表

歳入内譯簿計算表 金錢有高口別表

第五條 瓦斯局ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ金錢ノ出納計算ヲ整理スヘシ

日記簿 原簿

現金出納簿 歳入内譯簿  
歳出内譯簿 金錢有高口別簿

第六條 前條ノ帳簿ニ依リ左ノ計算表ヲ調製スヘシ  
原簿 日計表 歳入内譯簿計算表  
歳出内譯簿計算表 金錢有高口別表

第七條 日計簿ハ歳入歳出ノ豫算額及ヒ收入支拂ノ金額ヲ登記シ原簿ヘ轉載ノ基本トナスモノニシテ  
甲第一號様式ニ據リ歳入豫算額又ハ支拂額ノ各項及收入ニ對スル現金取扱所ヲ借方ニ記載シ歳出豫  
算額又ハ收入額ノ各項及支拂ニ對スル現金取扱所ヲ貸方ニ記載スヘシ但シ更訂減額又ハ過誤納下戻  
及戻入額等ハ朱書ヲ以テ本條ノ記載ヲ轉記スヘシ

第八條 原簿ハ甲第二號様式ニ依リ日記簿ヨリ轉載シ各科目ノ總計ヲ勘定整理スルモノトス  
第九條 現金出納簿ハ本市會計規程第八條ニ據リ取扱ヒタル現金ノ出納ヲ整理スルモノニシテ甲第三  
號様式ニ據リ收入額ヲ借方ニ支拂額ヲ貸方ニ記入スヘシ

第十條 歳入内譯簿ハ豫算額ニ對シ收入濟額并ニ豫算殘額ヲ登記スルモノニシテ甲第四號様式ニ據リ  
豫算ノ種類毎ニ區分シ細目別ニ口座ヲ設ケ其計算ヲ整理スヘシ  
第十一條 歳出内譯簿ハ豫算額ニ對シ支出命令額並ニ其殘額及ヒ仕拂濟額并ニ其殘額及仕拂未濟額ヲ  
登記スルモノニシテ甲第五號様式ニ據リ豫算ノ種類毎ニ區分シ細目別ニ口座ヲ設ケ其計算ヲ整理ス  
ヘシ

第十二條 雜部金收入整理簿ハ市ニ於テ取扱フヘキ雜種金ニ對スル收入額及累計ヲ登記スルモノニシ  
テ甲第六號様式ニ依リ各種毎ニ口座ヲ設ケ其計算ヲ整理スヘシ

第十三條 雜部金支出整理簿ハ市ニ於テ取扱フヘキ雜種金ニ對スル支出命令額仕拂濟額及仕拂未濟額  
ヲ登記スルモノニシテ甲第七號様式ニ據リ各種毎ニ口座ヲ設ケ其計算ヲ整理スヘシ

第十四條 金錢有高口別簿ハ各種ノ現在金ヲ整理スルモノニシテ甲第八號様式ニ據リ各豫算及雜部金  
ノ種類毎ニ口座ヲ設ケ收入額ヲ借方ニ支拂額ヲ貸方ニ記入スヘシ但シ更訂減額又ハ過誤納下戻及戻  
入額等ハ朱書ヲ以テ本條貸借ノ記入ヲ轉記シ其金額ハ次葉繰越ノトキ反對セル區ノ合計ヨリ扣除ス  
ヘシ

第十五條 原簿日計表ハ乙第一號様式ニ據リ日々原簿ノ殘高ヲ記載シ貸借兩區ノ總計均一ナルヲ以テ  
之カ正確ヲ表スルモノトス

第十六條 歳入内譯簿計算表ハ乙第二號様式ニ據リ歳入内譯簿ヨリ豫算額收入濟額及ヒ豫算殘額ヲ細  
目別ニ記載スルモノニシテ豫算ノ種類ニ據リ各別表ニ調製スヘシ

第十七條 歳出内譯簿計算表ハ乙第三號様式ニ據リ歳出内譯簿ヨリ豫算額支出命令額仕拂濟額並ニ豫  
算殘額及ヒ仕拂未濟額ヲ細目別ニ記載スルモノニシテ豫算ノ種類ニ據リ各別表ニ調製スヘシ

第十八條 雜部金收支整理簿計算表ハ乙第四號様式ニ據リ雜部金收入整理簿及ヒ雜部金支出整理簿ヨ  
リ收入額及ヒ支出命令額並ニ仕拂濟額仕拂未濟額ヲ種類毎ニ記載スヘシ

第十九條 金錢有高口別表ハ乙第五號様式ニ據リ金錢有高口別簿ノ差引殘額及繰替金預ケ金等ヲ各豫  
算及雜部金ノ種類毎ニ記載スヘシ

第二十條 收支對照統計表ハ市役所金錢出納ノ統計ヲ示スモノニシテ乙第六號様式ニ據リ歳入内譯簿  
計算表及歳出内譯簿計算表並ニ雜部金收支整理簿計算表ノ總計ヲ記載スヘシ

第二十一條 簿記ハ收支命令書及證憑トナスヘキ書類ニ據ルヘシ

- 第二十二條 帳簿記入ノ後證憑書類ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其事由ヲ證明セル更訂報告書ニ據リ收入役ノ檢印ヲ得タル後之ヲ更正スヘシ
- 第二十三條 歳入ニ於ケル豫算ノ減額過誤納下戻歳出ニ於ケル豫算ノ減額又ハ戻入命令額戻入額雜部金ニ於ケル誤納下戻又ハ戻入命令額等ハ金額及ヒ事項共特ニ朱書ヲ以テ記載シ其金額ハ次葉繰越ノ時扣除スヘシ
- 第二十四條 簿記ノ訂正ハ更訂報告書ニ據リ加除記入シ其扣除額ハ金員及事項共特ニ朱書ヲ以テ記載シ其金額ハ次葉繰越ノ時扣除スヘシ但シ帳簿記入ノ際誤記シタルトキハ其誤記シタル事項若クハ員額ノ正中ニ朱ノ二線ヲ横畫シ更ニ上部ニ額書スヘシ決シテ塗抹改描スヘカラス
- 第二十五條 原簿日計表ハ毎日調製シテ收入役ノ檢印ヲ受ケ其他ノ計算表ハ毎月末日ノ結果ニ據リ調製シ翌月七日迄ニ市參事會へ提出ス可シ
- 第二十六條 總テ帳簿ハ每會計年度ニ改置シ市參事會ノ決算認可狀ヲ得テ之ヲ結了スルモノトス
- 第二十七條 内譯簿ノ詳細ヲ要スル補助簿ハ市長(水道事務所ハ所長)ノ許可ヲ得テ適宜調製スルコトヲ得

(様式) (用紙フールスカツプ又本様式ニ見ハシタル線ハ總テ朱線トス)

第二様式(原簿)

年月日	摘要	借方	貸方	借取	残高

第四様式

歳入内訳簿

年月日	摘要	証憑 番 號	歳入豫算額	収入済額	減 或 増	残 高

第五様式

歳出内訳簿

年月日	摘要	命令 番 號	証憑 番 號	歳出豫算額	支 出 額		残 高	
					支出 命令額	仕拂済額	仕拂未済額	残高 <small>（前年度命令 金額との差引）</small>



第十一編 會計簿記規程

三三六

第六樣(雜式部金收支整理簿)

年月日	摘要	命令 番 號	証 憑 番 號	收入額	支 出 額		殘 高		頭 末
					仕拂命令 額	仕拂濟額	仕拂未濟 額	收入額- 仕拂命令 額	

第八樣式

金錢有高口別簿

年月日	摘 要	收入額	支出額	組 替 額		殘 高
				收入額	支出額	

第十一編 會計簿記規程

三三六

科 目		借 方	科 目		貸 方
總 計			黑線	總 計	
			黑線		

(歳入内訳計算表)

科 目			歳入豫算額	收入済額	差引増減
款	項	目			
					赤字

(歳出内訳簿計算表)

科 目			歳出豫算額	仕拂命令額	内 訳		繰り越一覽仕 拂命令額ヲ差引 残額
款	項	目			仕拂済額	仕拂未済額	

(雑部金收支整理簿計算表)

科 目	収入額	仕拂命令額	内 訳		収入額ヨリ仕拂 命令額ヲ差引残
			仕拂済額	仕拂未済額	

第十一表 會計簿記規程  
(金額有高口別表)

|||||

科目	収入額	仕拂額	差引残額	備			考			總計
				租替収入額	租替支出額	繰替金	預ヶ金	貸附金	證券預貯	

(收支對照統計表)

科目	歳入			歳出			仕拂差引残額 銀行へ預ヶ有高
	豫算額	収入額	差引残額	豫算額	仕拂額	差引残額	

第十一表 會計簿記規程

|||||

○物品會計規程

三十八年(六月) 總務第一三號

第一章 總則

第一條 本規程ニ物品ト稱スルハ市費ニ屬スル動産ヲ云フ

物品ヲ分チテ備品及消耗品ノ二種トス

第二條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ爲シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分ス其年度ハ會計年度ニ依ル

第三條 物品ノ出納保管ヲ掌ルモノヲ物品會計吏トシ物品ニ關スル事務ヲ取扱フモノヲ物品取扱主任

トス

第四條 特殊ノ事務ニ關シテハ分任物品會計吏ヲ置キ物品會計吏ノ事務ヲ分擔セシムルコトアルヘシ

第五條 分任物品會計吏及取扱主任ハ物品會計吏ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

第六條 物品取扱主任ヨリ物品會計吏ニ送付スル書類ハ總テ主務課長ヲ經由スヘシ主務課長ハ之レニ

檢印シ若クハ意見ヲ付スヘシ

第七條 物品會計吏及物品取扱主任更替シタルトキハ帳簿及保管ニ係ル物品ノ受授ヲ爲シ帳簿ハ最終

記帳ノ次ニ双方署名捺印スヘシ物品取扱主任ニアリテハ引繼濟ノ上ハ其旨物品會計吏ニ報告スヘシ

第二章 出納

第八條 物品ハ物品會計吏ニ於テ市參事會ノ決議ヲ受クルニアラサレハ購入賣却又ハ棄却スルヲ得ス

第九條 物品ハ日常必要ノモノニシテ時價變動ノ少キモノハ一年ノ需用高ヲ概算シ一回若クハ二回

ニ購入ヲナシ又ハ購買單價ヲ契約シ置キ時々納入セシムルモノトス其他ハ需用ノ時々購入スルモノ

トス

第十條 學校病院其他遠隔ノ場所ニ在リテ一々決裁ヲ得難キ場所ニ於ケル需用物品及修繕ニシテ其見

積價格一廉金參拾圓未滿單價五圓未滿ナルトキハ品目數量價格ヲ豫定シテ使用ノ目的ヲ具シ豫メ市參事會ノ決裁ヲ受ケ置キ必要ニ應シ直チニ購入出納ヲ爲スヲ得

第十一條 物品ノ請求ハ物品取扱主任ニ於テ請求書ヲ作り之ヲ物品會計吏ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ請求書ヲ受領シタル物品會計吏ハ物品取扱主任ノ領收證ヲ徴シ物品ヲ交付スヘシ

第十三條 備品費ニアラサル費目ヨリ購入シタルモノニシテ減損シ易ク保存ニ耐ヘス備品タルノ取扱ヲ爲シ難キモノハ其事由ヲ具シ物品取扱主任ヨリ物品會計吏ニ報告シ物品會計吏ハ市參事會ノ決裁ヲ受クヘシ

第十四條 修繕其他ノ事故ニ依リ引替ヲ要シ又ハ不用ニ屬シタル物品ハ取扱主任ヨリ其事由ヲ記載シタル返納書ヲ添ヘ物品會計吏ニ還付スヘシ

學校病院其他ニアリテハ物品取扱主任ヨリ前項ノ事由ヲ記載シ物品會計吏ニ報告スヘシ但修繕ヲ要スルモノハ第十一條ニ準據スルモノトス

第十五條 學校病院其他ニ於テハ第十條ニ依リ直接物品ヲ購入シタル物品取扱主任ハ代金請求書ト同時ニ物品ノ領收書ヲ物品會計吏ニ送付スヘシ

第十六條 物品出納整理ノタメ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

物品會計吏

一 備品出納簿

一 消耗品出納簿

其他補助簿

物品取扱主任

一 備品現在簿

一 備品整理簿

一 消耗品交付簿

其他補助簿

第十七條 物品ノ種類ハ物品科目表ニ依リ區分整理スヘシ

第十八條 物品科目表及帳簿様式ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 保管賠償

第十九條 貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ鎖鑰アル倉庫又ハ貯藏所ニ保管シ物品會計吏又ハ物品會計吏ノ委任シタル吏員ニアラサレハ開閉スルコトヲ得ス

第二十條 貯藏ノ物品ハ物品會計吏共用ノ物品ハ物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ但シ別ニ規程アルモノハ此限リニアラス

第二十一條 物品會計吏ハ物品取扱主任ヲ經テ交付シタル物品ト雖モ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責ニ任シ物品取扱主任ノ各自保管物品ニ於ケルモ亦同シ

第二十二條 保管ノ責アルモノ故意怠慢ニ因リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任ス

第二十三條 直接ニ保管ノ責ナシト雖モ故意怠慢ニ原因シタル物品ノ亡失毀損ハ仍ホ前條ニ據ル

第二十四條 物品ヲ亡失毀損シタルトキハ物品取扱主任ニ於テ保管責任者ノ事由書ヲ徴シ物品會計吏ニ送付スヘシ

第二十五條 物品會計吏ハ前條ノ事由書ニ基キ事實ヲ調査シ市參事會ノ決裁ヲ受ケ處分スヘシ

第二十六條 辨償金額ハ買入代價ニ依リ買入代價ノ知り難キモノハ鑑定人ノ鑑定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 辨償ヲ命セラレタルモノハ發令ノ日ヨリ五日以内ニ納入スヘシ若シ辨償金額巨額ニシテ一時ニ納入シ難キ事情アルトキハ其旨ヲ申出テ指揮ヲ請フヘシ

第二十八條 辨償ヲ命セラレタル吏員ニシテ負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ證據書類ヲ添へ發令ノ日ヨリ拾日以内ニ審査ヲ求ムルヲ得此場合ト雖モ徵收ヲ猶豫セス

第二十九條 再審査ニ於テ辨償ノ責ナシト決シタルトキハ辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第四章 計算報告

第三十條 物品會計吏ハ毎年一回以上現品及出納ノ實況ヲ調査シ其現在高ヲ帳簿ニ對照スヘシ

第三十一條 物品會計吏ハ前月中出納シタル消耗品明細表ヲ作り毎月十日限リ市參事會ニ報告スヘシ

第三十二條 物品取扱主任ハ毎年十二月末日現在ニ依リ物品ノ數量ヲ調査シ翌年一月廿日限リ之ヲ物品會計吏ニ提出シ物品會計吏ハ之ヲ整理シ更ニ市參事會ニ報告スヘシ

○横濱貿易商組合贈與財産別經濟

二十八年(十月) 告示第一一六號

横濱貿易商贈與ニ係ル財産ハ横濱市特別財産ノ名稱ヲ以テ其收支ヲ市費收支ト分別シ特ニ經濟ヲ立ツ

參照

○横濱貿易商組合財産横濱市へ贈與條件

第一條 貿易商組合ハ貿易上必要ナル公共ノ機關ヲ設備スル目的ヲ以テ團結シ從來財産ヲ所有シタルモノナレハ今同此財産ヲ舉テ横濱市ニ贈與スルモ市ハ將來此財産及之ヨリ生スル益金ノ使用ハ專ラ其意思ヲ繼承ス組合ノ施設ニ係ル既成事業ヲ維持及未遂ノ企圖ヲ果スヲ以テ目的トナスヘキ事

第二條 貿易商組合會館ニ對シテハ左ノ事項ヲ履行スル事

- 一 貿易商組合會館ノ名稱ヲ横濱會館ト改ムル事
- 二 横濱會館ハ相應ノ修繕ヲ加ヘ永久ニ之ヲ保存スル事
- 三 横濱市又ハ本町外十三ヶ町ヲ代表スル祝典禮應接待及從來ノ慣行ニ依リ貿易商組合ノ諸集會又ハ事務所ニ貸與シアルモノ并ニ市參事會ニ於テ認可スル慈善ノ會合等ニハ無代價ヲ以テ貸與スル事
- 四 前項ノ外定期臨時ナ開ハス諸集會等ニ之ヲ貸與スルコトヲ得可シ但豫メ市會ノ決議ヲ以テ其使用規則及使用料ヲ定ムヘシ

第三條 共同倉庫ハ貨物ノ集散授受ヲ容易ニシ併テ金融ノ便ヲ謀ル目的ヲ以テ建設シタルモノナレハ横濱市ハ現在ノ倉庫ヲ保存スルト同時ニ漸次規模ヲ擴張スル方針ヲ取ルヘシ然レトモ市ハ直接ニ營利事業ニ從事スルヲ得サルモノナレハ貸貸法ニ依リ相當ノ借受人ヲ定メ市ニ代リテ該事業經營ノ任ニ當ラシムヘキ事但從來共同倉庫ノ貸借契約等ハ借受人ノ選認トナラサル様横濱市ニ於テ改メテ借受人ト熟議ヲ遂クヘキ事

第四條 横濱商業學校立替金八千七百五拾圓八拾壹錢九厘ハ横濱市ニ寄附スルヲ以テ市ハ更ニ本町外十三ヶ町ニ寄附スル事

第五條 改所建物ノ内海岸通四丁目西波止場ニアル一棟ハ運送營業人仲間ノ承諾ヲ得テ共有權ヲ繼續シ其他辨天橋大江橋柳橋

豊國橋花園橋等ノ各改所ハ借受人ノ選認トナラサル様横濱市ニ於テ改メテ貸借契約ヲ締結ス可キ事

第六條 第七十四國立銀行小野商店大谷商店ヨリノ借入金ハ年七厘ノ利子ヲ添ヘ元金ト共ニ贈與財産中ヨリ辨濟スル事

第十一類 横濱貿易商組合贈與財産別經濟

○倉庫及倉庫敷地並地所賃貸手續

二十九年(二月) 告示第四號

- 一 倉庫及敷地並ニ明地ノ内六百九十坪六合五夕六才ハ左ノ條件ニ依リ賃貸スルモノトス
  - 一 借主ハ貨物ノ集散授受ヲ容易ニシ併セテ金融ノ便ヲ謀ル目的ヲ以テ借用スル者ニ限ル
  - 二 賃貸料ハ年額金九千圓以上トス
  - 三 借受保證金トシテ有價證券額面金貳萬圓ヲ差出スモノ
  - 四 前項保證金ハ借主ノ故意又ハ過失ヨリ生スル損害並ニ違約ノ補償又ハ賃貸料滞リノ補填ニ充ツルモノトス
  - 五 市參事會ニ於テ必要ナリト認ムル約定ヲナス事
  - 六 貸付期限ハ契約締結ノ日ヨリ向フ三十ヶ年トス

地所賃貸手續

- 一 倉庫敷地ニ接續スル明地五百九十八坪九夕八才ハ左ノ條件ニ依リ賃貸スルモノトス
  - 一 借主ハ貨物ノ集散授受ヲ容易ニシ併セテ金融ノ便ヲ謀リ又ハ商業上必要ナル公共ノ機關ヲ設備スル目的ヲ以テ借用スルモノニ限ル
  - 二 賃貸料ハ一ヶ月一坪金四拾五錢以上トス
  - 三 市參事會ニ於テ必要ナリト認メタル約定ヲナス事

○共葬墓地及火葬場別經濟

二十四年(四月) 告示第二八號

久保山共葬墓地及火葬場ハ別ニ經濟ヲ立テ歲入出差引殘餘金アルルハ其準備トシテ積立置クモノトス

第十一類 倉庫及倉庫敷地並地所賃貸手續 共葬墓地及火葬場別經濟



○横濱市事業公債規程

三十六年(四月) 告示 第四七號

- 第一條 横濱市事業公債ハ横濱市臨時教育費及道路改修費舊債償還ニ充ツルモノトス
- 第二條 此ノ公債ハ五拾五萬六千六百五拾圓ヲ限リ明治三十六年度ニ於テ募集スルモノトス
- 第三條 此ノ公債ノ利子ハ額面金額ニ對シ一ケ年百分ノ六トス
- 第四條 此ノ公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓五拾圓ノ四種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ依リ記名證書ト爲スコトヲ得
- 第五條 此ノ公債募集方法ハ募集高ノ額面ヲ一時ニ拂込ムヘキモノト募集高ノ額面ヲ數回ニ拂込ムヘキモノトノ二種トス但シ其種類ハ募集ノトキ市參事會ヨリ公告スヘシ
- 第六條 前條數回ニ拂込ムヘキモノハ其拂込金額ニ對シ記名ノ假公債證書ヲ交付シ額面金額ノ拂込ミヲ終リタルトキハ公債本證書ト交換ス但シ假公債證書ハ賣買讓受及抵當トナスコトヲ得
- 第七條 此ノ公債元利金ノ支拂ハ市參事會ノ選定シタル取扱所ニ於テ取扱ハシム但シ取扱所ハ官報又ハ新聞紙上ヲ以テ豫メ之ヲ公告スヘシ
- 第八條 此ノ公債證書ノ見本ハ横濱市役所及各取扱所ニ備ヘ置クモノトス
- 第九條 此ノ公債ヲ募集スルトキハ其募集期日金額及價格申込日限并ニ場所等本市參事會ニ於テ之ヲ定メ官報又ハ新聞紙ヲ以テ豫メ之ヲ公告スヘシ
- 第十條 此ノ公債應募者ハ本市參事會ノ指定スル期限内ニ應募金額及價格并ニ住所氏名ヲ詳記シタル申込書ヲ市參事會ニ宛テ差出スヘシ但シ第四條但書ニ依リ記名證書ノ交付ヲ望ム者ハ前項申込ト同時ニ其旨市參事會ヘ宛申出ツヘシ
- 第十一條 此ノ公債應募者ハ申込書提出ノトキ市參事會ノ指定スル割合ニヨリ應募額ニ對スル保證金

ヲ拂込マサル申込ハ無効トス

前項保證金ヲ拂込ミタルトキハ市參事會ヨリ領收證書ヲ交付ス

第十二條 此ノ保證金ノ領收證書ハ應募者ヨリ他人ニ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第十三條 此ノ公債應募高毎期需用ノ額ニ超過スルトキハ市參事會ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次募入シ需用額ノ充ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込高ノ割合ニヨリ之ヲ減スヘシ前項ノ場合ハ減額ニ相當スル保證金ヲ還付スヘシ

第十四條 前條ニヨリ應募者定マリタルトキハ同時ニ應募金額拂込ノ期限并ニ場所ヲ通知スヘシ

第十五條 此ノ公債應募者ハ本市參事會ノ指定スル期限内ニ保證金ヲ控除シタル跡金ノ拂込ヲナスヘシ但シ應募金額ヲ一時ニ拂込ム可キ場合ニハ跡金ヲ悉皆拂込ミ又數回拂込ムヘキ場合ハ第一回拂込ノトキ保證金ヲ控除シ其跡金ヲ拂込ムモノトス

第十六條 此ノ公債應募金ヲ一時ニ拂込ムヘキ場合ニシテ其拂込ミ期日マテニ拂込マサルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ百圓ニ付キ一日參錢ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シ利子ヲ徴ス拂込期日後三ヶ月ヲ過キ尙拂込ミヨリ了セサルモノアルトキハ其申込ハ無効トス此ノ場合ニ於テハ其保證金ヲ還付セス第十七條 此ノ公債募集金數回ニ拂込ムヘキ場合ニシテ假公債證書ヲ交付シタルモノ跡金ノ拂込ミ期日マテニ拂込マサルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ前條ノ例ニヨリ利子ヲ徴シ拂込期日後三ヶ月ヲ過キ尙拂込ヲ了セサル者アルトキハ保證金トシテ拂込ミタル金額ハ還付セス

第十八條 保證金ヲ拂込ミ未タ跡金ノ拂込ヲ了セスシテ本人死亡シ又ハ其身分ニ異動ヲ生シタルトキハ其相續人若クハ引受人ヨリ跡金拂込ノ旨ヲ書面ニ認メ市參事會又ハ町村長ノ證明ヲ得テ本市參事會ニ届出ツ可シ但シ引受人ヨリ申出ツル場合ニハ相續人若クハ身分ニ異動ヲ生シタルモノノ連署ヲ

要ス

第十九條 公債證書ノ様式ハ市參事會之ヲ定ム但シ證書面ニハ此ノ公債所有者ト横濱市トノ關係ハ此ノ規程ニ於テ定ムルモノトス將來之ヲ改正(第四十八條ニ規定スル各條ヲ除ク)スルトキモ亦同シトノ旨ヲ掲ケ且此ノ規程第三條、第二十一條、第二十三條、第三十四條、第三十六條、第三十八條ノ規定ヲ摘録スルモノトス

第二十條 應募者ニ交付スヘキ公債證書ハ本市參事會ニ於テ其種類ヲ定メ保證金額領收證書及拂込金又ハ假公債證書ト引換ニ交付ス

記名證書ヲ交付スルトキハ市參事會ニ於テ其證書ニ證印シ且記名簿ト割印ス可シ其名前書換ヲ爲シタルトキモ亦同シ

第二十一條 此ノ公債元金ハ明治三十七年度ヨリ向フ十四ケ年間ニ抽籤ヲ以テ償還スルモノトス其償還金額抽籤期日等ハ本市參事會ヨリ官報又ハ新聞紙ヲ以テ豫メ之ヲ公告スヘシ

第二十二條 此ノ公債元金償還ノ抽籤ハ本市參事會ニ於テ市會議員三名以上立會ノ上執行シ其當籤證書ノ金額種類記號番號及仕拂ノ期日并ニ場所ハ市參事會ヨリ官報又ハ新聞紙ヲ以テ其時々之ヲ公告スヘシ但シ本公債證書額面五千圓以上ヲ所有スルモノハ抽籤ニ立會フコトヲ得

第二十三條 此ノ公債ノ利子ハ毎年三月九月兩度ニ半ケ年分ツ、ヲ拂渡スモノトス此公債利子ハ元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニアルモノハ下半年分ヨリ十六日以後ニアルモノハ翌月分ヨリ起算シ當籤又ハ滿期償還ノトキハ其支拂期日ノ當月マテヲ計算スルモノトス

公債證書發行ノトキ六ヶ月ニ滿タサル利子ハ月割利札ヲ添ヘ證書ト共ニ交付スルモノトス

第二十四條 此ノ公債利金ハ各取扱所ニ於テ證書又ハ利札引換ニ其持參者ヘ支拂フヘシ但シ記名公債

元利金ハ其記名者ニ支拂フヘシ

第二十五條 此ノ公債利子ヲ受取ラントスルトキハ其所有者利札ヲ截斷シ取扱所ニ差出スヘシ

第二十六條 無記名證書ヲ記名證書ニ若クハ記名證書ヲ無記名證書ニ變換セントスルトキハ請求書ニ公債證書ヲ添ヘ市參事會ヘ差出スヘシ

第二十七條 記名證書ノ賣買讓與ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ公債證書ヲ添ヘ市參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ但シ正當ノ理由ニ依リ讓渡人又ハ賣渡人ノ連署ヲ以テ請求スルト能ハサルトキハ請求書ニ其理由ヲ詳記シ讓渡又ハ賣渡ニ關スル證書ヲ添付スヘシ

第二十八條 記名證書ノ所有者死亡若クハ失踪シ跡相續人ニ於テ其財産ノ相續ヲ爲ストキハ相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證明スル市參事會又ハ町村長ノ與書ヲ受ケ親戚二名連署シ公債證書ト共ニ市參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ

第二十九條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニアラスシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ相續人連署ノ請求書ニ市參事會又ハ町村長ノ與書ヲ受ケ市參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ但シ相續人ナキトキハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人トナシ且ツ相續人ナキコトヲ證明スル市參事會又ハ町村長ノ與書ヲ受ク可シ

第三十條 記名證書ニシテ裁判上ノ處分ニ依リ其所有權ヲ得タルモノハ請求書ニ裁判所ノ證明書及ヒ公債證書ヲ添ヘ市參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第三十一條 記名證書ノ所有者改姓名ヲ爲シタルトキハ市參事會又ハ町村長ノ與書ヲ受ケ公債證書ト共ニ市參事會ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第三十二條 此ノ公債證書及利札ヲ亡失セシトキハ請求書ニ其亡失ノ事由及證書面金高記號番號等ヲ

詳記シ保證人二名以上ノ證明書ヲ添ヘ市參事會ニ差出シ代證書交付ヲ請フ可シ

第三十三條 此ノ公債證書及利札ヲ汚染若クハ毀損シタル爲メ代證書ノ交付ヲ請フルハ請求書ニ公債證書ヲ添ヘ市參事會ニ差出スヘシ但シ其真正ヲ鑑別シ難キモノハ亡失證書ノ例ニ依ル

第三十四條 第二十八條第二十九條ノ場合ニ於テ同條規定ノ親戚ナキトキハ親戚一名ヲ以テシ親戚一名モナキトキハ請求書ニ其旨ヲ記載シ相當ノ保證人二名以上ノ證明書ヲ添付スヘシ若シ親戚アルモ證明ヲ拒ミタルトキハ其事由ヲ詳記シ市參事會ヘ差出ス可シ

第三十五條 第三十二條第三十四條ノ場合ニ於テ保證人ナキトキ又ハ第十八條第二十八條第二十九條ノ場合ニ於テ市參事會又ハ町村長其與書又ハ證明ヲ與ヘサルトキハ請求書ニ其事由ヲ詳記スヘシ

第三十六條 亡失シタル證書記名證書ニ係ルトキハ亡失届出後滿五ヶ月ヲ過キ且一回ノ利金支拂期日ヲ經過シ無記名證書ニ係ルトキハ亡失届出後滿四ヶ月ヲ經過シ尙ホ發見セサルトキハ代證書若クハ代利札ヲ交付スルモノトス但シ本條ノ期間ニ於テ故障者有リタルトキハ亡失届出人ニ通告シ所有權ノ確定スルマテ代證書ノ交付ヲ停止ス

前項代證書ヲ交付シタル後紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ之ニ對スル元利金ハ一切支拂ハサルヘシ

第三十七條 元利金支拂ノ期日一ヶ月前ハ名前書換ヲ停止ス

第三十八條 此ノ公債證書又ハ利札ヲ亡失シタルトキハ市參事會ニ届出ツ可シ其發見ノトキ亦同シ本文ノ場合ニ於テ市參事會ハ直チニ官報又ハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ但シ公告料ハ届出人ノ負擔トス

第三十九條 保證金領收證書ノ亡失汚染毀損ニ關シテハ記名公債證書ノ例ヲ準用ス

- 第四十條 亡失届出ノ證書又ハ利札ヲ取扱所ニ持參スルモノ有ルハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲナスヘシ
- 第四十一條 記名證書所有者ハ市參事會又ハ町村長ノ證明ヲ得テ其印鑑ヲ市參事會ニ差出スヘシ其改印改姓名ヲ爲シタルトキ亦同シ市參事會又ハ町村長ニ於テ前項ノ證明ヲ與ヘサル場合ニ於テハ其旨ヲ届書ニ詳記スヘシ
- 第四十二條 第三十六條ノ場合ニ當リ既ニ當籤又ハ滿期ニ係ルモノハ代證書又ハ代利札ヲ交付セス直ニ元利金ヲ支拂フヘシ
- 第四十三條 此ノ公債證書ノ當籤又ハ滿期償還ノトキ拂出スヘキ利子ノ六ヶ月分ニ滿タサルモノ及第四十二條ニヨリ拂渡スヘキ其證書ノ元利金ハ領收書ヲ徴シ其支拂ヲ爲スモノトス
- 第四十四條 此ノ公債元金ハ當籤又ハ滿期償還告示ノ日ヨリ三十日以内ニ取扱所ニ於テ支拂フヘシ
- 第四十五條 第二十六條乃至第三十一條ニ依リ書換ノ手續ヲ終ラサル間ハ市ハ其證書記名人ニ對シ債務ヲ負擔セス
- 第四十六條 左ノ場合ニ於テハ其請求人ヨリ相當ノ費用ヲ市參事會ニ納メシムルモノトス
- 一 新規記名
  - 一 記名除却
  - 一 代證書交付
  - 一 記名變換
- 第四十七條 第二十六條第三十二條第三十三條ニ依リ交付スヘキ代證書及代利札ハ本人ヨリ領收證書ヲ徴シ交付スルモノトス

第四十八條 本規程第三條第二十一條第二十二條第二十三條ヲ除クノ外ハ之ヲ増補シ又ハ之レヲ改正スルコトアルヘシ

横濱市事業公債募集及償還方法

- 第一條 此ノ公債ハ額面金額百圓ニ付金九拾圓以上ノ價格ヲ以テ募集スルモノトス
- 第二條 此ノ公債ノ利子ハ額面金額ニ對シ一ケ年百分ノ六トシ毎年三月九月ノ二度ニ拂渡スヘキモノトス
- 第三條 此ノ公債ハ明治三十六年度ニ於テ一回又ハ數回ニ募集スルモノトス
- 第四條 此ノ公債ハ別紙償還表ニ示ス如ク明治三十七年度ヨリ向フ十四ケ年間ニ市費ヲ以テ元金ヲ償却シ並ニ利子ヲ支拂フモノトス但經濟ノ狀況ニ依リ市參事會限リ每年次ノ償還額ヲ更正スルコトヲ得

(別紙) 横濱市事業公債償還年次表

年次	起債額	市費	子費	償還額	支出高計	毎年度未償還額
明治三十六年 第一年	五五、六五〇	二七、八三五〇	二七、八三五〇	二七、八三五〇	二七、八三五〇	五五、六五〇
明治三十七年 第二年		三三、三九九	二六、六〇〇	五九、九九九	五九、九九九	五〇、〇五〇
明治三十八年 第三年		三二、八〇三	二八、一五〇	五九、九五三	五九、九五三	五〇、一〇〇
明治三十九年 第四年		三〇、一四	二九、八五〇	五九、九六四	五九、九六四	四九、一五〇

第十一類 横濱市事業公債規程

三五〇

明治四十年 第五年	二八,三三三	三二,六五〇	五九,九七三	四四〇,四〇〇
明治四十一年 第六年	二六,四四四	三三,五五〇	五九,九七四	四〇六,八五〇
明治四十二年 第七年	二四,四一一	三五,五五〇	五九,九六一	三七一,三〇〇
明治四十三年 第八年	三二,二七八	三七,七〇〇	五九,九七八	三三三,六〇〇
明治四十四年 第九年	二〇,〇二六	三九,九五〇	五九,九六六	二九三,六五〇
明治四十五年 第十年	一七,六一九	四二,三五〇	五九,九六九	二五一,三〇〇
明治四十六年 第十一年	一五,〇七八	四四,九〇〇	五九,九七八	二〇六,四〇〇
明治四十七年 第十二年	一二,三八四	四七,六〇〇	五九,九八四	一五六,八〇〇
明治四十八年 第十三年	九五,二八	五〇,四五〇	五九,九七八	一〇八,三五〇
明治四十九年 第十四年	六五,〇一	五三,四五〇	五九,九五二	五四,九五〇
明治五十年 第十五年	三二,九四	五四,九〇〇	五八,一九四	〇

(備考)

起債許可總額五十五萬六千六百八拾圓ニ對スル三拾圓ノ差額ハ最少公債額面五拾圓ニ滿タサルニ付初年ニ於テ適宜處理スルヲ  
ノトス

○横濱市事業公債ニ關スル諸料金

三十六年(十月) 告示第一一〇號

- 一 新規記名 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便料
- 一 記名除却 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便料
- 一 代證書交付 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便料
- 一 但本公債證書假公債證書トモ其製造原價ヲ別ニ徴收ス
- 一 記名變換 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便料

橫濱市事業公債規程

三十九年(九月) 告示第七九號

第一條 橫濱港改良設備費及海面埋立費ニ充ツル爲メ起債スル橫濱市事業公債ハ本規程ニ依ル

第二條 此公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札付トス

第三條 此公債ノ利子ハ年額ヲ二分シ前半ケ年分ツツヲ拂渡スモノトス

但證書發行ノ月ニ於テハ發行ノ日ヨリ償還ノ月ニ於テハ償還ノ日迄ヲ日割ヲ以テ仕拂フモノトス

第四條 此公債ノ元金ハ募集ノ年ヨリ十ヶ年据置キ其後二十ヶ年以内ニ抽籤又ハ其他ノ方法ヲ以テ償還ヲ爲スモノトス

第五條 此公債ノ證券種類元利金仕拂手續其他證書取扱等ニ關スル規定ハ市參事會之ヲ定ム

募集及償還方法

第一條 橫濱港改良設備費及海面埋立費ニ充ツル爲メ明治三十九年度ニ於テ券面英貨三十一萬七千磅ノ公債ヲ募集スルモノトス但財政ノ都合ニ依リ翌年度ニ於テ募集スルコトヲ得ルモノトス

第二條 此公債ハ券面額ニ對シ手取金百分ノ九十六半以上ヲ以テ募集スルモノトシ確實ナル銀行又ハ其他ノ信託業者ヲシテ之ヲ引受けシムルコトヲ得ルモノトス

第三條 此公債ノ利子ハ券面金額ニ對シ一ヶ年百分ノ五トシ毎年度二回ニ拂渡スモノトス

第四條 此公債ノ元金ハ募集ノ年ヲ第一年トシ第十年迄据置キ第十一年ヨリ第三十年迄ニ事業收入並ニ市税其他ノ收入ヲ以テ償還シ了ルモノトシ財政ノ都合ニ依リ全部ヲ一時ニ償還シ又ハ年限ヲ短縮スルヲ得ルモノトス

公債償還年次表

年次	年度	公債		元金償還額	元利合計	公債取扱費	通計
		債額	利子				
一	三十九	三,一〇八,八〇〇	九〇,六七三,三三三 <small>(九月六日、三月三十一日、七月七日、十月三十一日)</small>	—	九〇,六七三,三三三	九,一三六,〇一〇	九九,八〇九,三四三
二	四十	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
三	四十一	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
四	四十二	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
五	四十三	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
六	四十四	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
七	四十五	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
八	四十六	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
九	四十七	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
十	四十八	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	—	一五五,四四〇	三三,一六〇	一五五,六七三,一六〇
十一	四十九	三,一〇八,八〇〇	一五五,四四〇	一七六,一〇〇	三三,三四〇	四二,二六〇	三三三,九五二,二六〇
十二	五十	三,一〇八,八〇〇	一四六,五五五	四三,〇〇〇	一八九,五三五	二六,二八三	一八九,七九七,八〇三

十三	五十一	二,八八七,七〇〇	一四四,三八六	四五,二〇〇	一八九,五八五	二六,七七八	一八九,八四六,七七八
十四	五十二	二,八四二,五〇〇	一四二,二二五	四七,四〇〇	一八九,五三五	二六,〇五八	一八九,七八五,五八八
十五	五十三	二,七九五,一〇〇	一三九,七五五	四九,八〇〇	一八九,五三五	二五,九四三	一八九,八四四,四三三
十六	五十四	二,七四五,三〇〇	一三七,二三五	五一,三〇〇	一八九,五三五	二五,八一八	一八九,八三三,一九八
十七	五十五	二,六九三,〇〇〇	一三四,六五〇	一〇〇,四〇〇	二五五,〇五〇	三三,二七五	二五五,三二二,三七五
十八	五十六	二,五七二,六〇〇	一三六,六三〇	一三六,四〇〇	二五五,〇三〇	三九,三四五	二五五,三四九,三四五
十九	五十七	二,四四六,二〇〇	一三三,三三〇	一三三,七〇〇	二五五,〇一〇	三六,一六五	二五五,三三六,一六五
二十	五十八	二,三三三,五〇〇	一二五,六七五	一三九,四〇〇	二五五,〇七五	三二,一九三	二五五,三八七,九二三
廿一	五十九	二,二七四,一〇〇	一〇八,七〇五	一四六,三〇〇	二五五,〇〇五	三〇,九三五	二五五,三四三,三五八
廿二	六十	二,一〇七,八〇〇	一〇一,三六〇	一五三,七〇〇	二五五,〇九〇	三〇,七八五	二五五,三九五,七八五
廿三	六十一	一,八七四,一〇〇	九三,七〇五	一六一,三〇〇	二五五,〇〇五	三〇,一八八	二五五,三〇六,八八八
廿四	六十二	一,七二二,八〇〇	八五,六四〇	一六九,四〇〇	二五五,〇四〇	二九,七八〇	二五五,三三七,八六〇
廿五	六十三	一,五四二,四〇〇	七九,一七〇	一七九,九〇〇	二五五,〇七〇	二九,三六五	二五五,三三六,三五五

廿六	六十四	一三五,五〇〇	六八,七五五	一八,八〇〇	二五,〇七五	二八,九二三	二五,三六四,二三
廿七	六十五	一七,七〇〇	五八,九五五	二七,一〇〇	三三,〇三三	三六,一五〇	三三,三九七,五〇
廿八	六十六	九四,六〇〇	四五,三〇〇	二七,八〇〇	三三,〇〇〇	三五,六四五	三三,三八五,六四五
廿九	六十七	六二,八〇〇	三〇,八四〇	三〇,二〇〇	三三,〇〇〇	三四,八四〇	三三,三八八,四六〇
三十	六十八	三二,六〇〇	一五,七三〇	三二,六〇〇	三三,〇三〇	三三,八一五	三三,〇六八,一九
計		三五四,〇三三	三,一〇八,八〇〇	六,六五〇,八三三	一七,四二二,八四〇	六,六六八,四四五	一七,三

備考

一 債額ハ英貨拾磅ニ付日本貨九拾八圓六錢九厘六ニ該當セリ  
 一 公債取扱費ハ募集手数料、利子仕拂手数料ハ各千分ノ一半元金仕拂手数料ハ千分ノ一トシテ計算セリ  
 初年ノ取扱費中ニハ證書製造費並ニ遞送其他雜費トシテ四千五百圓ヲ計上ス

橫濱市事業公債規程施行細則

三十九年十月  
 告示第九一號

- 第一條 公債ノ元金又ハ利金ハ證書又ハ利札引換ニ其持參者ニ仕拂フモノトス
- 第二條 公債證書又ハ利札水火災等ニ因リ消滅シタルトキハ其消滅ノ事由及證書面金高記號番號等ヲ詳記シ市參事會ニ届出テ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得市參事會ハ其消滅ノ證據明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書又ハ代利札ヲ交付ス之カ交付ニ要スル一切ノ費用ハ請求者ノ負擔トス
- 第三條 公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルトキハ證書面金高、記號、番號等ヲ詳記シ其旨市參事會ニ届出ツヘシ其發見ノトキ亦同シ
- 前項紛失ノ届出アリタルトキハ之ヲ公告シ其後滿一ケ年ヲ經ルモ尙發見セザルトキハ代證書又ハ代利札ヲ交付ス但故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ確定判決アルニ非レハ交付セス代證書又ハ代利札交付ニ要スル一切ノ費用ハ紛失者ノ負擔トス
- 第四條 公債證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ代證書又ハ代利札ヲ請求スルコトヲ得市參事會ハ其汚染毀損ノ證據明確ナリト認ムルトキハ之ト引換ニ代證書又ハ代利札ヲ交付ス其費用ニ關シテハ第二條ノ例ニ依ル
- 第五條 公債證書又ハ利札ニシテ消滅ノ證據明確ト認メ難キモノ若クハ汚染毀損ノ爲メ其真否ヲ鑑別シ難キモノハ紛失證書ノ例ヲ以テ取扱ヒ第三條ヲ適用ス
- 第六條 前數條ノ場合ニ於テ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄ハ之カ元利金ノ仕拂ヲ停止ス
- 第七條 代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無効トス
- 代證書又ハ代利札ヲ交付スルトキハ領收證ヲ徴スルモノトス



- 第八條 公債元金ノ償還ハ毎年十二月末日トス公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ執行スル場合ハ抽籤期日ハ償還期日ノ六十日前トシ市參事會之ヲ定メ市會議員三名以上立會ノ上執行ス
- 第九條 公債ノ利子ハ毎年六月末日十二月末日ノ二回ニ其日マテノ前半ケ年分ヲ支拂フモノトス
- 第十條 公債元金ハ償還期日後十年間ニ公債利子ハ支拂期日後五年間ニ支拂ノ請求ヲ爲ササルトキハ時効ヲ完成ス
- 第十一條 公債元利金ノ支拂ハ「サミユル、サミユル」商會ヲシテ取扱ハシメ其場所ハ同商會之ヲ公告スヘシ
- 第十二條 公債證書ノ種類并ニ様式ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第十三條 公債證書ノ見本ハ横濱市役所及取扱所ニ備置クモノトス

事業資金管理規程

三十九年(十二月)  
告示第一二七號

- 第一條 本規程ニ於テ事業資金ト稱スルハ横濱港改良設備費及海面埋立費ニ充ツル爲メ編入スル資金ヲ云フ
- 第二條 事業資金ハ本規程ニ依リ管理スルモノトス
- 第三條 事業資金ハ資本金拂込高及積立金ヲ合シ參拾萬圓以上ヲ有シ且ツ市參事會ニ於テ確實ト認ムル銀行ニ利率年五朱以上ノ割ヲ以テ定期預金トナスモノトス但預入期間短クシテ定期預金トナスコト能ハサル場合ハ銀行所定ノ利率ヲ以テ常座預金トナスコトヲ得
- 第四條 前條ニ依リ銀行ニ預入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預入金額ニ相當スル擔保ヲ徵スヘシ
- 第五條 前條ノ擔保金有價證券ナルトキハ市參事會ニ於テ確實ト認ムル銀行ニ保護預トナシ其預リ證書ヲ徵シ保管スヘシ
- 第六條 事業資金ハ市會ノ議決ヲ經テ有價證券ヲ以テ保有シ又ハ有利ナル方法ニ依リ運用スルコトヲ得ルモノトス
- 第七條 事業資金ヨリ生スル收入ハ總テ元資ニ編入スルモノトス

○市ノ事業ニ對スル寄附ノ受領

二十五年(三月)  
告示第二二號

本市ノ事業ニ對シ金穀物件並ニ勞力ノ寄附ヲ申出ルモノアルトキハ市參事會ニ於テ直ニ受領シ處分ノ上翌年度ノ初ニ於テ之ヲ市會ニ報告スルコトヲ得但見積金額參拾圓以上ニシテ將來維持上市費ノ負擔ヲ要スルモノハ此限リニアラス

○本町外十三ヶ町ノ事業ニ對スル寄附ノ受領

二十五年(三月)  
告示第二八號

本町外十三ヶ町ノ事業ニ對シ金穀物件又ハ勞力ノ寄附ヲ申出ツルモノアルトキハ市參事會ニ於テ直ニ受領シ處分ノ上翌年度ノ初ニ於テ之ヲ區會ニ報告スルコトヲ得但將來維持上市費ノ負擔ヲ要スルモノハ此限ニアラス

○老松町外六ヶ町及其他三區ニ屬スル教育費寄附ノ受領

二十六年(五月)  
告示第五七號

老松町外六ヶ町吉田町外廿七ヶ町壽町外六ヶ町元町外三ヶ町ニ屬スル教育費ニ對シ金穀物件若クハ勞力ノ寄附受領ニ關シテハ總テ市ノ事業ニ對スル規定ヲ適用ス

第十一類

市ノ事業ニ對スル寄附ノ受領 本町外十三ヶ町ノ事業ニ對スル寄附ノ受領  
老松町外六ヶ町及其他三區ニ屬スル教育費寄附ノ受領

第十二類 本牧町外一ヶ町及其他五區ニ屬スル教育事業ニ對スル寄附ノ受領 土木 三六二

○本牧町外一ヶ町及其他五區ニ屬スル教育事業ニ對スル寄附ノ受領 三十四年(十一月) 區會 決 議  
本牧町外 一ヶ町 根岸町 三ヶ町 石川町外 伊勢町外 神奈川町 三ヶ町 九ヶ町 十四ヶ町 外三ヶ町

右各町ニ屬スル教育事業ニ對シ金穀物件若クハ勞力ノ寄附ヲ申出ツルモノアルトキハ市參事會ニ於テ直ニ之ヲ受領シ處分ノ上翌年度ノ初メニ於テ之ヲ區會ニ報告スルコトヲ得(根岸町ニ屬スル分ハ報告スルコトヲ得)「モノトス」ト改メ但書ノ一項ヲ加フ「但五拾圓以上ノ金額若クハ同額ノ物件ハ此限ニアラス」(神奈川町)ニ屬スル分ハ翌年度ノ初メ「次會」ト改ム

○土木事業ニ屬スル寄附ノ受領 三十九年(三月) 告示第二〇號改正

一市費支辨ノ性質ヲ有スル事業ニシテ土木事業ニ屬スル土地金穀物件并ニ勞力ノ寄附ハ將來維持上市費ノ負擔ヲ要スルモノト雖モ公共ノ便益ト認ムルモノハ市參事會限リ之レヲ許可スルモノトス但寄附金額五百圓以上ハ此限ニアラス

○横濱市外八學區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程 三十九年(三月) 告示第一四號

○横濱市戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

- 第一條 本市ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス
  - 第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念第一「何」高等小學校基本財産ト稱ス
  - 第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ
    - 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
    - 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
    - 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
    - 四 蓄積財産ノ利子
  - 第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス
  - 第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得
  - 第六條 基本財産ハ市會ノ議決ニ依リ一ヶ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス  
銀行ニ預ケ入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預金額相當ノ擔保ヲ徵シ其擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ヘ保護預ケト爲スヘシ
- 横濱市神奈川町外五ヶ町戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程
- 第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス
  - 第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス
  - 第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ

- 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
- 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
- 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
- 四 蓄積財産ノ利子

第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス

第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス  
銀行ニ預ケ入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○横濱市伊勢町外十六ケ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス

第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス

第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ

- 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
- 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
- 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
- 四 蓄積財産ノ利子

第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス

第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス  
銀行ニ預ケ入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○横濱市老松町外六ケ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス

第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス

第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ

- 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
- 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
- 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
- 四 蓄積財産ノ利子

第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス

第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス  
銀行ニ預ケ入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○横濱市三春町外九ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

- 第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス
  - 第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス
  - 第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ
    - 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
    - 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
    - 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
    - 四 蓄積財産ノ利子
  - 第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス
  - 第五條 基本財産ハ第一條ノ期間修了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得
  - 第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ヶ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス  
銀行ニ預ケ入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ
- 横濱市吉田町外二十七ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程
- 第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス
  - 第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス
  - 第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ
    - 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金

- 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
  - 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
  - 四 蓄積財産ノ利子
  - 第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス
  - 第五條 基本財産ハ第一條ノ期間修了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得
  - 第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ヶ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス  
銀行ニ預入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ
- 横濱市壽町外六ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程
- 第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス
  - 第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス
  - 第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ
    - 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
    - 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
    - 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
    - 四 蓄積財産ノ利子
  - 第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス
  - 第五條 基本財産ハ第一條ノ期間修了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス

銀行ニ預入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○横濱市元町外三ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス

第二條 本規程ニヨリ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス

第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ

- 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
- 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
- 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
- 四 蓄積財産ノ利子

第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス

第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

銀行ニ預入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○横濱市根岸町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス

第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス

第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ

- 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
- 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
- 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
- 四 蓄積財産ノ利子

第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間内之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス

第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其ノ利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス

銀行ニ預入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其ノ擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○本牧町外一ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程

三十九年(五月)  
告示第四一號

第一條 本區ハ戰役紀念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小學校基本財産ヲ蓄積ス

第二條 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戰役紀念尋常「何」小學校基本財産ト稱ス

第三條 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ

- 一 小學校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄附金
  - 二 使用ノ目的ヲ定メサル篤志者ノ寄附金
  - 三 有志者ノ寄附ニ係ル基本金
  - 四 蓄積財産ノ利子
- 第四條 基本財産ノ蓄積ハ第一條ノ期間之ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得ス
- 第五條 基本財産ハ第一條ノ期間終了ノ翌年度ヨリ其利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得
- 第六條 基本財産ハ區會ノ議決ニ依リ一ヶ年ヲ超ヘサル期間ヲ以テ確實ナル銀行ニ利付預ト爲シ又ハ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入若クハ確實ナル有價證券ヲ購入スルモノトス
- 銀行ニ預入ノ場合ニ於テハ市參事會ハ預ケ金額相當ノ擔保ヲ徵シ其擔保品有價證券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

○横濱市外九學區日露戰役紀念小學校基本財産預入規定

三十九年(九月) 告示第八五號

明治三十八年八月十七日議決ニ係ル横濱市戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年八月二十六日議決ニ係ル本市吉田町外二十七ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年八月二十六日議決ニ係ル本市老松町外六ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年八月二十四日議決ニ係ル本市壽町外六ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年十一月十三日議決ニ係ル本市元町外三ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年十一月十日議決ニ係ル根岸町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十九年四月十八日議決ニ係ル本市本收町外一ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年八月二十八日議決ニ係ル本市三春町外九ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年八月二十八日議決ニ係ル本市伊勢町外十六ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

明治三十八年九月二十三日議決ニ係ル本市神奈川町外六ヶ町區戰役紀念小學校基本財産蓄積及管理規程第三條ニ依リ蓄積スル日露戰役紀念小學校基本財産ハ其都度同規程第六條ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ預ケ入ル、モノトス

第十一類

救 恤

○救護所規則 三十四年(九月) 規則第一號

第一條 橫濱市救護所ハ極貧ナル市住民ノ中ニ就キ獨身ノモノ又ハ獨身ニ非ラサルモ餘ノ家人ト共ニ左ノ各號ノ一ニ該當シ即時頼ル處ナキ者ヲ救助スル所トス

一 重傷ノ狀況ニ在ル者

二 癱疾又ハ疾病ニ罹リ一身ヲ支フルニ足ル生業ヲ營ム能ハサルモノ

三 六十年以上七十年以下ニシテ老衰シ一身ヲ支フルニ足ル生業ヲ營ム能ハサルモノ  
市住民中一號乃至三號ノ一ニ該當スル極貧ナル非獨身者ハ餘ノ家人幼弱ナル場合及幼弱ニ非ラサルモ其所在不明ナル場合ハ特ニ前項ニ準シ救助ス

第二條 救助ノ必要止ミタルモノハ隨時退所セシム但救助中ノモノト雖モ頼ルヘキ所アルヲ發見シタルトキハ速ニ引渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 第一條ノ救助ニ要スル費用ハ濟貧恤窮ヲ目的トシタル本市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス但基本財産ノ收益ノミニテ不足ヲ來ストキハ市費ヲ以テ補フモノトス

第四條 行旅病人及ヒ其ノ同伴者并ニ行旅病人ニ準スヘキ者ニシテ其ノ筋ニ於テ定メラレタル相當ノ費額ヲ受クル場合ニ於テハ此救護所ニ入所セシムルコトヲ得

第五條 窮民恤救規則ニ依リタル市内ノ究民ニシテ其筋ヨリ下附セラルヘキ限度ノ恤救米代及縣費補助金又ハ恤救米代ヲ引當テ橫濱市救護所ニ入所ヲ許可シタルトキハ其下附ヲ受クル恤救米代及縣費



補助金又ハ救恤米代ノ全部ヲ救護料トシテ徴收ス但其限度以上ニ要スル費用ハ濟貧恤救ヲ目的トシタル本市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

第六條 棄兒養育法ニ依ルヘキ市内ノ棄兒迷兒遺兒ニシテ其筋ヨリ相當ノ養育米代及ヒ補助金ヲ下附セラル、ニ於テハ此養育所ニ養育スルコトアルヘシ但其下附金以上ニ要スル費用ハ濟貧恤窮ヲ目的トシタル本市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

第七條 入所人ニシテ草取、掃除、洗濯、裁縫等所中ノ輕務ニ堪ユル者アルトキハ隣員ノ適當ト認ムル程度ニ於テ任意從事セシムルコトアルヘシ

第八條 此規則外ノ細則入所人心得其他ノ諸規程ハ市參事會之ヲ定ム

○究民救護所入ノ者使用料徴收其他

三十四年(九月)  
告示第一三三號

究民恤救規則ニ依リタル市内ノ究民ニシテ其筋ヨリ下附セラレヘキ限度ノ恤救米代及縣費補助金又ハ恤救米代ヲ引當横濱市救護所ニ入所ヲ許可シタルトキハ其下附ヲ受クル恤救米代及縣費補助金又ハ救恤米代ノ全部ヲ救護料トシテ徴收ス其限度以上ニ要スル費用ハ濟貧恤救ヲ目的トシタル横濱市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

○救護所處務規程

三十五年(一月) 昭達第一號

第一條 救護所ニ所長ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ但救護所ニ書記缺員ノ場合本廳ノ書記ヲ以テ兼任セシムルコトヲ得

第二條 所長ハ市長助役ノ命ヲ受ケ救護所管理ノ責ニ任ス

第三條 所長ハ窮民ノ委任ニ依リ石代金及縣費補助金ノ受拂ヲ爲シ又裁判所ノ選定ニ依リ窮民ノ遺産ヲ管理スルコトヲ得

第四條 救護所ノ處務ハ醫務事務ノ二部ニ分掌ス

第五條 醫務部分掌事項ノ概要左ノ如シ

- 一 治療及調劑ニ關スル事
- 一 病狀日誌ニ關スル事
- 一 處方箋處方録診斷書死亡證ニ關スル事
- 一 滋養品ノ給否ヲ定ムル事
- 一 病者ニ給スヘキ賄ノ種類ヲ定ムル事
- 一 看護人ヲ指揮スル事
- 一 所内ノ八種傳染病者ニ關スル事
- 一 事務部分掌事項ノ概要左ノ如シ
- 一 文書編纂及保存ニ關スル事
- 一 看護人使丁及雇人ノ勤怠ヲ監督シ并ニ所中ノ風紀取締ニ關スル事
- 一 日誌ニ關スル事

- 一 宿直及夜警ニ關スル事
- 一 賄及滋養品ノ檢査ニ關スル事
- 一 備品消耗品及雜品ノ取扱ニ關スル事
- 一 賄方ヨリ差出ス諸請求書ヲ査閲スル事
- 一 病者ニアラサル入所人ノ監視教導ニ關スル事
- 第七條 所員ハ所長ノ指揮ヲ受ケ各擔任ノ事務ニ從事スヘシ
- 第八條 本廳又ハ出張所ヨリ行旅病人ヲ送付セラレタルトキハ事務部ニ於テ其氏名住所族籍職業年齡等ヲ入所人名簿ニ記入シ醫務部ニ通知スヘシ
- 第九條 入所者死亡シタルトキハ直ニ死体室ニ移シ消毒ヲ要スルモノハ之ヲ施スヘシ
- 第十條 入所人ノ退所逃亡死亡ハ遅クとも翌日迄ニ本廳ニ届出ツヘシ
- 第十一條 醫員ノ回診ハ輕症者ヲ除ク外ハ少クとも毎日一回以上トス
- 第十二條 所長ハ救護所構内ノ公舎ニ居住スヘシ但外泊ヲ要シタルトキハ主務課ニ届出ツヘシ
- 第十三條 所員及看護人使丁ノ服務心得并宿直ニ關シテハ主務課ノ指示スル所ニ依ル
- 第十四條 帳簿日誌其他ノ諸様式ハ主務課ノ指示スル所ニ依ル

○傳染病貧民患者並死者救助規程

三十年十月  
告示第一五七號

- 第一條 本市内ニ於テ發見セル傳染病患者並死者ニシテ傳染病豫防法第二十一條第一項七ニ依リ貧民トシテ市費ヲ以テ救助スヘキモノハ該患者並死者又ハ其家族カ左ノ事項ニ該當シタルトキニ限ル
- 一 不動産ヲ所有セス又ハ所有スルモ既ニ質入書入ト爲リ該物件及其他ノ動産ヲ以テ費用ヲ償フノ資トナスヲ得サルモノ
  - 二 不動産ヲ所有スルモ僅カニ雨露ヲ凌クニ過キササル家屋及宅地ノミニシテ之ヲ抵當トスルモ費用ヲ償フニ足ラサルモノ
  - 三 動産ヲ所有スルモ職業ニ必要ナル物品及臥具炊具等ヲ除キ他ニ費用ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ所有セサルモノ
  - 四 患者並死者若シ他管ノ住民ナルトキハ其居住地ノ市町村長又ハ區長ニ於テ本條ノ規定ニ依リ貧民ト認メタルモノ
- 第二條 傳染病貧民患者並死者トシテ市費ヲ以テ救助スヘキ費目ハ左ノ如シ
- 一 入院料
  - 一 埋火葬費
  - 一 雜費(新聞紙廣告料等)
  - 一 豫防消毒費(患者送致人夫費汚物取片付費消毒藥費消毒人夫費)
- 第三條 傳染病貧民患者並死者ニシテ市費ノ救助ヲ受ケントスルモノハ戸主、戸主ナキトキハ家族、家族ナキトキハ親族故舊ヨリ出願セシムルモノトス但親族故舊ナキ單獨ノ患者並死者ニシテ本文ニ依リ出願スル能ハサル場合ハ此限ニアラス

# 第十三類

## 水道

○水道給水規則 三十一年(二月) 告示第二一號

### 第一章 通則

第一條 横濱市水道用水(以下單ニ用)供給ノ種類分チテ三種トス

第一種 家事用 飯料、爨炊、洗濯、沐浴等普通家事用ニ供スルモノヲ云フ

第二種 例外用 家事ニアラスシテ商業、製造、洗滌、船舶、牛馬、馬車等ノ用ニ供スルモノヲ云フ

第三種 特別例外用 噴水、泉、庭池園圃、撒水若クハ前掲ノ外他ノ諸用ニ供スルモノヲ云フ

第二條 用水供給ノ方法分チテ二種トス

第一 放任供給 水量ヲ計量セスシテ給水スルモノヲ云フ

第二 計量供給 水量ヲ計量シテ給水スルモノヲ云フ

第三條 前條給水ノ方法中其孰レニ依ルカハ獨リ水道事務所(以下單ニ事 務所ト稱ス)ノ見込ヲ以テ決定スルモノトス

第四條 用水供給ハ晝夜不斷トス然レトモ火災、旱魃、不測ノ起事若クハ水道各部ノ秩序ヲ失スル等已  
ヲ得サル場合ニ於テハ其供給時間若クハ水量ヲ制限スルコトアルヘシ此場合ニ於テ生スル損失又ハ  
不便ニ對シ事務所ハ其責ニ任セサルモノトス

第五條 配水栓、水瓣、防火栓其他邸宅外ニ係ル水道器具ハ水道吏員ノ外何人タリトモ之ヲ開閉シ若ク  
ハ之ニ觸ルヘカラス